

わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

11

2017.11 NO.450

初冬号

第69巻3号



陶小学校のある陶町は陶磁器産業が盛んな地域です。陶小学校の全校児童は111名です。3つ並んだ「1」は、陶町にある3つの世界一を表しています。「世界一のこま犬」、「世界一の茶壺」そして「陶小学校」です。子どもたちや地域の方が陶小学校を誇りに思えるよう、地域の産業や歴史、文化を学んでいます。子どもたちの学びの成果を11月30日に開催される「金銭教育協議会」でPTAや地域の方にも観ていただきます。

そして、今年度末には、旧陶中学校への校舎移転が控えています。現在の校舎に感謝の心がもてるよう、地域ぐるみで「ありがとう陶小学校」の活動を続けています。



「わたしのこま犬世界一」

～6年生地域粘土題材～

みずなみ し りつすえしょうがっこう

瑞浪市立陶小学校

●【学校の教育目標】

心豊かでたくましく やりとげる陶の子
～やさしく かしく たくましく～



▲ビオトープの補修作業



▲学習支援による家庭科授業

校歌

蘇原第二小学校校歌

作詞 永縄 半助
作曲 上野 忠平
編曲 丸山 春雄

一、各務原の 大空へ
みんなでかざす 夢のひらに
朝のひかりが こぼれてる
蘇原第二小 学生
元氣 いばい 鍛えます

二、風がかがやく 沢上の
丘にそびえる まなびやに
花のかおりが あふれてる
蘇原第二小 学生
まことの道を 育てます

三、力あわせて たくましく
心もはずむ 羽ばたきに
もえるきぼうが 呼びかける
蘇原第二小 学生
あすの世界を開きます

各務原市立 蘇原第二小学校

【かかみがはらしりつそはらだいにしょうがっこう】

●住所 〒504-0827 各務原市蘇原沢上町1丁目19番地
●TEL (058)383-4011
●FAX (058)371-8107
●メール so2sho@he.mirai.ne.jp
●児童数 569名

学校の教育目標

しなやかに
真心をもって
あすを拓く



学校のたからもの



沿革・地域の自然や風土

本校は、昭和四十七年（一九七二年）、蘇原小学校より分離開校し、四十六年目を迎えた学校です。今年度は、学校の教育目標を『しなやかに 真心をもって あすを拓く』と新たにし、自己肯定感の高まりを実感できる子を目指しています。

学校のたからもの①

「蘇二小のたからもの①」
『よさを発揮し、温かくつながる学校へ』

①人を感動させる「合唱」

蘇二小では、全学年、合唱に長年取り組んでいます。特に今年度は美しい合唱を学校の宝物とすべく日々練習しています。毎月一回「全校の歌」集会を開いてい

なっています。

④いじめのない、温かい心あふれる仲間づくり「土台」

五月の全校集会で、学級目標にこめた「いじめ防止の願い」を学級ごとに発表し合う場を設けています。いじめを許さない学級であり続けようという決意を全校の前で行います。また、日常活動として言われてうれしかった言葉や感謝の気持ちをカードに書くなどお互いの心が温かくなるよう「ほかほかことば」でえがおいづばい」の学校にしていこうと全校で取り組んでいます。

学校のたからもの②

「保護者や地域の方は学校のたからもの」
『多くの人とつながり成長する子どもたちへ』

①「蘇二子トープ」で自然体験

本校の運動場東には、二〇〇三（平成十五年）三月に地域の皆様の協力で行われたビオトープ（「蘇二子トープ」と呼んでいます）があり、休み時間等の子どもたちの遊び場、憩いの場となっています。児童会の自然委員会が担当となり、正しい遊び方を伝えたり、集会で「蘇二子トープ」の植物や動物について、クイズ形式で発表したりしています。また、

四月には六年生が全校の手本として校歌を披露しました。その後は月に各学年が合唱の発表を行います。また、全校で歌の練習を行ったり、ペア学年で合唱交流会を開いたりして互いに高め合い、磨き合っています。この礎となるのは朝の発声練習から始まる合唱です。こうした活動の成果は十月の学校参観日（おんさいデー）の「合唱発表会」で、各学年および三学年合同による合唱を保護者、地域の方や他学年の児童を前に発表しています。その歌声は多くの人の心を動かすものになっています。

②明るく「あいさつ」

本校では、あいさつを児童会の生活委員会を中心に取り組んでいます。今年度こだわっているのは「進化系あいさつ」です。進化系あいさつとは、『よびかけあいさつ』（相手の名前を呼んでのあいさつで、言われた人はうれしさが倍増します）、『ありがとうあいさつ』（見まもり隊



▲おんさいデー 「合唱発表会」



▲「進化系あいさつ」キャンペーンの紹介



▲10秒スタートで始まる「黙って掃除」

や保護者の方への感謝の気持ちをもち、それを伝えまうことを言います。また、年間二回「あいさつキャンペーン」も実施し、気持ちのよいあいさつが学校内に響き渡り、あいさつで心が温かくなる学校をめざして励んでいます。

③真心「そんじ」

美化委員会が中心となって、心をこめて行う掃除に取り組んでいます。その基盤として「そんじ名人」キャンペーンがあります。「そんじ名人」の条件は、①だまて掃除 ②すみずみまで掃除 ③正しい道具の使い方掃除④十秒スタートをして掃除 ⑤道具の整理整頓以上の五つです。掃除の時間になると美化委員の担当児童が、担当場所に行き、一緒に掃除をしながら五つの条件で頑張っている児童を見つめます。そして「そんじ名人」として選び、名人証書を渡します。こうした活動を通して、掃除が上手にできるようになり、学校全体がきれい

②学校へ行く「プロジェクト」

「学校へ行くプロジェクト」は、児童が教師以外のより多くの人格に直接間接的に出会い、活動を通して自己を成長させることを目的に行っています。「学期は、保護者や地域の方々に学習支援ボランティアとして活躍していただきまし

た。五年生では、「ボランティアおかあさん」に家庭科の玉結びや玉止めの裁縫実習補助をしていただきました。「こま塩たつぷりのおにぎりを作ろう」という学習課題で、おにぎり型のフェルト生地に「こま塩（玉止め）を縫い付けていきます。た。ボランティアおかあさん」の支援で、どの子も玉結びや玉止めができるようになり、「こま塩たつぷりのフェルトのおにぎり」が完成しました。

③地域とつながるクラブ活動（いずみ活動）

「いずみ活動」とは、本校のクラブ活動です。全十九講座を開設しています。本校では、茶道、将棋、陶芸、フットボール、押し花、アニメの六つのクラブで地域の方に講師として指導をしていただいています。また、多文化共生を目指し、今年度から「わくわく外国語」クラブを創設し、ポルトガル語やタガログ語を中心に外国人講師や保護者ボランティアの方に支

援していただき外国語やその文化を学んでいます。子どもたちは、「いずみ活動」を通して地域や外国とつながっています。

④ボランティア活動「温かい心づな」

本市では、年度当初市内全小中学校の児童生徒に対して「ボランティア手帳」が配付されます。そして、自主的にボランティア活動を行った児童を学校で認める活動を行っています。子どもたちは、家庭でのお手伝い（低学年中心）をはじめ、学校内の清掃活動、中庭などの落ち葉清掃、学校外の道路や公園、公共施設の掃除や草引きなどを頑張っています。中にはボランティア手帳を十冊以上達成する児童、学級全員が五十回認証を達成するよう頑張っているクラスもあります。ボランティアは、「こつこつと努力し続ける心」や「人のため、社会のために心を行動に表す態度」など、子どもたちの道徳性の高まりに大きな影響を与えます。自分も他の人も気持ちよく生活できる蘇二小、蘇二小校区になるよう取り組んでいます。



▲蘇二小キャラクター「蘇二ニコリ」



▲「ボランティア手帳」50回達成



▲運動会 5・6年生による演技「ソーラン」

校歌

瀬尻小学校校歌

作詞 塚原 正男
作曲 伊藤 美雪

一、熊野が丘はほのぼのと
れい明くる鳥の声
古松の語るそのまゝに
伝統はこる瀬尻校

二、歴史は古きかがり火に
長良の川瀬に身をきたえ
知徳をみがき理想へ
おおしく進まんともどもに

②ソーラン・八木節・ソイヤ

五月の運動会では、高学年がソーラン、中学年がロック八木節、低学年がソイヤを踊ります。毎年恒例の演技で、運動会の目玉の一つになっています。それぞれ二つの学年が合同で練習するのですが、上の学年は前年の経験を生かして下の学年に手本を見せ、下の学年はそれを見て学び、次の年は自分たちが教える立場になっていきます。取組を引き継いでいくことで、上の学年への憧れをもって仲間と共に自ら取り組む心ややりとげる心を育てています。

学校のたからもの② 地域に学ぶ学習

校区の豊かな自然や歴史・文化・産業について、地域に暮らす様々な人たちと関わりを深めながら学んでいくことで、ふるさとに学びふるさとを愛する子を育てる「ふるさと教育」を特色ある教育活動として推進しています。一年生では「瀬尻の自然」をテーマに校外に出かけて自然と触れ合い、二年生では「瀬尻のまち」探検をして鶏匠さんなど様々な人と触れ合います。三年生では「円空里芋」の栽培を通して農家の方の願いや苦勞を学

関市立 瀬尻小学校

【せじりつせじりしょうがっこう】

●住所 〒501-3265 関市小瀬2120番地4
●TEL (0575)22-3120
●メール seji-ri-e@edu.city.seki.gifu.jp
●児童数 455名

学校の教育目標

仲間と共に
自ら取り組み
やりとげる子

～よさを発揮する子～



学校のたからもの



人権教育やふるさと教育を推進しており、「あいさつ」「ふわふわ言葉・態度」の実践により人権意識を高めると共に、共生学校づくりの推進組織である「おらが学校」づくり推進委員会による活発な支援活動により、生活科や総合的な学習の時間でのふるさと教育の充実に取り組んでいます。

学校のたからもの① 三つの力と三つの心

三つの力：あいさつ（人を大切にする力）・そうじ（物を大切にする力）・聞く話す（言葉を大切にする力）と三つの心：仲間と共に自ら取り組む心・やりとげる心を育むことで、「世界の瀬尻小学校」を目指して児童と教職員が一つになって取り組んでいます。六・七月には掃除を月目標として取り組みました。全校アンケートによる達成率は最初は約六割でしたが、最後には約八割とすることができて、みんなで成果を共有することができました。二学期スタートはあいさつを目標にして取り組んでいます。学校でも、地域でも「自分からあいさつできる」ことを目指していきます。

①スマイル宣言とスマイル手帳

瀬尻小には「スマイル宣言」があります。
①「ふわふわ言葉十か条」を使って生活します②「くん」「さん」づけをして仲間を呼びます③いじめをしません、の三つです。また、「ふわふわ言葉」とは、①ありがとう②いつしよにあそばさ③がんばって④だい

び、四年生では「長良川」の環境や川と共に生きる人々の生き方について学びます。五年生では高齢者の方との交流を通して「身近な福祉」について、最後に六年生では「瀬尻の歴史と未来」をテーマに塚原遺跡や弥勒寺、円空、刀鍛冶などについて学び、ふるさとの未来について考えていきます。

①松尾山登山

学校の北には校区を一望できる「松尾山」があります。おらが学校づくり推進委員会の協力によって整備された登山道（標高三七〇で片道二十分ほど）を使って、毎年すべての学年が、地域の方々と共に登ります。二年生はドングリを拾って秋の遊びを楽しみます。三年生は校区の土地利用を、四年生は山と川の関係について自分の目で確かめたり地域の方から説明を聞いたりします。六年生は「ふるさとを愛し、ふるさとを忘れない卒業記念登山」を二月に行います。

②夏のフリースタイル活動

おらが学校づくり推進委員会や青少年健全育成推進協議会、PTAとの協力により夏休み中に、「親子フリースタイル活動」(一・三年生、「長良川フリースタイル活動」(四・五年生)、「校内の清掃修繕活動」(六年生)を行っています。いずれも、親子で参加して汗を流すことで、親子の触れ合いを大切にすると共に、地域や学校への愛着を深めていくことを目指しています。



▲松尾山から長良川を眺める



▼3年生 「円空いも」



▲2年生 「鶏匠さんとの交流」



▲スマイル手帳の表紙

じようぶ⑤「めねね⑥手つたう⑦の「いねじようずだね⑧おはよう⑨やさしいね⑩ナイス」です。四月には各学級でふわふわ言葉やちくちく言葉について話し合い、教室には「みんなスマイルコーナー」を作ってふわふわ言葉の掲示をするだけでなく、ふわふわ言葉を使っている子を紹介して、みんなに広めています。また、PTAや瀬尻地区青少年育成推進協議会と協働して「スマイル手帳」を作成し、学校・家庭・地域の取組としていきます。児童が、「自分から」や「相手から」のふわふわ言葉や態度を記録していくことで、人や言葉を大切にすることを育んでいきます。



▲スマイルフェスティバルの様子

校歌

新宮小学校校歌

作詞 畑中 裕作
作曲 山本 弘

一、緑の野山朝日をあびて
川上川のゆたかなほとり
日ごとに集い、仲むつまじく
からだきたえ、仲むつまじく
ここにぞ 新宮小学校
稲葉そよぎて 風さわやかに
生さるよろこび 胸にあふれる

二、真白き高嶺夕日に映えて
乗鞍岳のけだかき姿
まじかに仰ぎ、日に新しく
学びの業にいそむわれら
ここにぞ 新宮小学校
茜うつらう 空清らかに
楽しき望み 胸にもえたつ



高山市立 新宮小学校

【たかやましりつしんぐうしょうがっこう】

●住所 〒506-0035 高山市新宮町2635番地2
●TEL (0577)32-1884
●FAX (0577)37-0617
●メール shingu@edu.city.takayama.gifu.jp
●児童数 438名

学校の教育目標

輝く子
進んで学ぶ子
共に歩む子
自ら鍛える子



学校のたからもの

学校の沿革および地域の様子

新宮小学校は、昭和二十五年に開校して、今年で創立六十七周年になります。周囲は田んぼが広がり、校区にはかつてスキー場だった原山市民公園があり、自然豊かな土地に位置しています。

校章は、新宮小学校の前身である上枝村立上枝小学校が設立された際、上枝村の「上」という字の古代文字「★」に付近の古墳群のイメージの二本の剣を原型としています。昭和二十五年に三枝小学校と新宮小学校に分かれた際には、従来の形態をそこのことなく、剣を学問の象徴であるペンに取り替え、中央に「新」の二字を据えて、現在の校章となりました。

学校のたからもの②

PTAや地域の方による 登下校の様子を見守る活動

PTA学級委員が、スクールサポーター活動として、学期に二回、年間三回、通学班に付き添って一緒に下校をします。また、PTA地区委員が、定期的に所定の位置に立ち、安全な登校をしているかどうか、子どもたちの様子を見守ります。

地域では、「地域で子どもを守ろう会」の皆さんが、登下校時に、交差点や家の前に立ち、子どもたちに声掛けをしてくださっています。また、この他にも、「松倉育みの会」といった自主的な組織があり、子どもたちの健やかな成長のために、挨拶標語を募集して挨拶運動を進めるなど、地域と家庭と学校が一体となつて教育活動を進めています。

学校のたからもの③ スマイル班活動

学年を超えた子ども同士の関わりが少なくなっている今日、新宮小学校では、一年生から六年生までを縦割りにした十五人ほどの小グループを編成し、業間の時間に一緒に遊ぶ活動を行っています。中心となるのは、六年生です。遊びの内容や進行など、担当の先生と事前に相談して決めます。低学年でも高学年でも楽しめる内容を考えますが、お互いが気遣ったり譲り合ったりするこ

学校のたからもの①

三本柱（挨拶、授業、掃除）を 核として仲間を 大切にできる心を高める活動

本校では、相手を大切にする心の育成を目指して取り組んでいます。学習では、話している子の目を見て最後まで聞く姿を、生活では、目を見て元氣よく挨拶をする姿や、ありがたうの気持ちで掃除をする姿を目指しています。これら



▲ありがたう気持ちで床拭きをする姿



▲生活委員会の朝の挨拶運動の様子



▲スクールサポーターによる付き添い下校



▲仲間の意見につなげて発表する姿

は、学校の教育目標「輝く子」に導く三つの柱として、新宮小学校の伝統となつて受け継がれています。

今年度、児童会では、「輝け！三本柱」仲間も自分も大切に、心をつなぐ挨拶、仲間とつくる授業、感謝を伝える掃除の「スローガン」を掲げて、本部委員会、生活委員会、学習委員会、掃除委員会が中心となり、子どもたちの輝く姿が増えるよう働きかけを行っています。

生活では、朝、生活委員会が児童玄関□で、目を見て挨拶をしたり、教室へ入る時に仲間「おはよう」と目を見て挨拶できるよう働きかけをしたりするなど、相手を大切にしたい心をつなぐ挨拶に取り組んでいます。

授業では、自分も仲間も一緒に高まるよう、発言する仲間の目をしっかりと見て最後まで聞き、自分の立場や根拠をはっきりさせて、仲間の意見につなげて考えが伝えられるよう取り組んでいます。

掃除では、時間いっぱい黙々と、ゼロの声でありがとつた気持ちで込めて掃除することに取り組んでいます。

とで、人間関係を深めています。

昨年十一月には、全校児童がグラウンドに集まり、「スマイルフェスティバル」と称して、班ごとに十五地点をまわるオリエンテーリングを行いました。

学校のたからもの④ ふるさと新宮につながる活動

全校児童が、郷土学習を行っています。特に、三年生から六年生までは総合的な学習の中で、郷土とつながりのあるものをテーマに選び、地域の方々の協力を得て、調べ学習や体験学習を行い、調

べたことをまとめて他学年の児童や保護者の方々に向けて発表会（輝き学習発表会）を行っています。

具体的な活動としては、飛騨牛の見学（三年生）、福祉学習（四年生）、稲作体験（五年生）、大原騒動（六年生）などがあります。稲作体験は、近隣の農家を営む方の田んぼをお借りして、田植え、田んぼの草取り、稲刈り、脱穀、収穫したお米の試食と二年間かけて学習をします。新宮小学校の子どもたちは、地域の方々に支えられて、郷土学習を進めています。



▲畜産センター見学の様子



輝き学習発表会の様子▶



◀稲刈り作業の様子



海津市立 日新中学校

【かいづしりつにつしんちゅうがっこう】

●住所 〒503-0654 海津市海津町高須531番地1
●TEL (0584)53-0040
●FAX (0584)53-0430
●メール nisshin-chu@city.kaizu.lg.jp
●生徒数 372名

学校の教育目標

共に高め合い
自立する生徒

～プラスαの努力をする～



学校のたからもの



沿革・地域の自然や風土

海津市は岐阜県の最南端に位置し、木曽川と長良川が東境を、揖斐川が中央部を流れています。海抜ゼロメートル地帯ゆえに、しばしば洪水が襲い、尊い生命や財産が奪われてきましたが、平田親負ら薩摩藩士による宝暦治水等により、洪水の危険性が軽減され、河川によってもたらされた肥沃な土壌に培われた豊かな田園地帯が広がっています。本校は、昭和二十二年に海津郡学校組合立高須中学校として設立、同年、日新中学校と改称しました。また、昭和五十七年には現在の海津市立高須小学校の場所から新校舎に移転しました。創立七十二年目を迎えた今年は、トイレの洋式化とエアコン設置を含む大規模改

校歌

日新中学校校歌

作詞 各務虎雄
作曲 河野信一

一、長良と揖斐の清流の
恵みたけき 南濃に
日々に新たに 進みゆく
里の栄を 興さんと
もゆる望に 胸はりて
教の庭に われら集えり

二、薩摩の義士の世にしろき
いとおかしき 仰ぎつ、
日々に新たに 咲きにおう
花の文化を 築かんと
あした夕に まゆあけて
学の道に われらいそしむ

日新応援歌

作詞 原田昭二
作曲 沢藤精三

一、大空高く 澄みて 風清らかに
日新健児の 意気天地をおおう
あふるる 若き熱は じりりい
さんたり 我等が 伝統輝きみ
つる 今ぞ 今ぞが 歌われに
あがる 今ぞ 今ぞが 歌われに
あがる

二、灼熱砂をまき 若き血たぎる
日新健児の 意気天地をおおう
理想は おえかに ひろみは 澄み
て 勝利の旗は 高くひるがえりたり
今ぞ 今ぞが 歌われに
あがる 今ぞ 今ぞが 歌われに
あがる

④ さわやかな生活

自分も周りの人も気持ちよく過ごすことができるよう、「自分から大きな声で目を見て交わす挨拶」いわゆる挨拶キャッチボールを行ったり、時と場に合った身だしなみを心掛けたりして生活しています。いつも地域の方々が声を掛けてくださっているおかげで、生徒もさわやかに挨拶ができます。

⑤ 感動合唱

心を込めて歌い、聴き、共に感動をつくることができるよう、「縦割り学級での合唱交流」を行ったり、昼休みに「中庭コンサート」で学年合唱を披露し合ったりしています。

⑥ 心を豊かにする読書

読書を通して自分の考えをもち、思いを深めることができるよう、十分間の「朝読書」を行ったり、「おすすめの本」を紹介したりしています。

行事を通じた成長の節目②

学校のたからもの②

生徒一人ひとりとって成長の節目となるよう、他学年との関わりを大切にしたり取り組みが行われています。活動の工夫だけでなく、そこに生徒の思いや願いが込められて、伝統が引き継がれています。これらの行事を終えると、生徒の目は輝きを増します。

① 体育大会

前期の集大成として、互いの成長を確認し合う行事です。保護者や地域の方々

修工事が行われ、より安全快適な環境になりました。

生徒会による日常生活の向上

学校のたからもの①

生徒の願いを大切にしたい生徒会活動を推進し、日常生活の向上を図っています。活動の多くは本校の伝統になっているもので、生徒自身も自慢できる伝統として認識しています。

① 全員でつくる授業

「人ひとりが「分かってほしい」という意欲をもつて学ぶことができるよう、三分前学習で前時の復習や準備の学習を行った後、声の大きさや体の向きなど、相手を意識して聞く姿勢を心掛けたりしています。また、「ハンドサイン」で理解度や発言内容の意思表示をお互いの学習状況を確認できるようにして、分からないままにしない授業づくりに取り組んでいます。年度当初には、二年生が三年生の



▲仲間の発言にハンドサインを使って意思表示



▲膝をついて後ろヘジグザグに雑巾がけ



▲衛生的で能率的な配膳を目指して

授業を参観する時間を設け、理想の学び方を全校で共有できるようにしています。

② ひざつき掃除

校舎への感謝の気持ちをもって、汚れと向き合い落とし切ることができるよう、「黙契で気持ちを切り替えたり、「声なし掃除」で自ら汚れを見つけ、集中して時間いっぱい取り組めるようにしたりしています。また、床をジグザグに雑巾がけするなど、その場所に合った掃除方法も工夫しています。

③ 思いやり給食

本校には食堂がありますので、毎日全校生徒が集まり一緒に給食を食べています。誰もが衛生的に美味しく食べることができるよう、三点着用（白衣帽子・マスク）の徹底で衛生面に配慮したり、「私語なし配膳入場」で食事時間に余裕を生み出したりしています。食堂にあるテーブルとイスは、新校舎に移転して以来三十五年間使い続けています。

から最も注目されている種目が応援合唱です。各団規定の演目に「日新応援歌」があります。上級生が下級生に手本を見せて教え、すべての生徒が身につけて卒業していく伝統の歌です。体の反りと天に向けての叫び声で観客を圧倒しています。

② 合唱発表会

感動合唱を目指して取り組んできた成果を発表する伝統の行事です。学級合唱、学年合唱、全校合唱を披露し、全校で感動を分かち合います。隣接している市文化センターまで足を運び、大ホールにて堂々と発表しています。年度当初の新入生歓迎会で、先輩の合唱に圧倒され

た下級生が頑張ることで、今度は逆に上級生に火をつけるという好循環が生まれています。

③ 三年生と語る会

卒業を目前に控えた三年生が、中学校三年間を振り返り、どんな思いでどのような歩みを残してきたか、後輩の前で一人ひとり語る行事です。これは卒業式に例えると、全員が答辞を述べることを意味します。後輩に語る内容は、決してうまくいったことばかりではありませんが、それは本人の経験から生まれた「本物の言葉」ですから、大きな感動を与え、後輩の心に深く刻み込まれています。



▲体育大会応援合唱の演目「日新応援歌」



▲感動合唱をめざして取り組んだ成果の発表



経験から生まれた本物の言葉を後輩へ▶

わが子のあゆみ

2017.11 No.450 初冬号

表紙 瑞浪市立陶小学校

学校のたからもの 1

各務原市立蘇原第二小学校／関市立瀬尻小学校／高山市立新宮小学校／海津市立日新中学校

わが家の宝物 中津川市立付知南小PTA 会長 鷲見佳紀 9

特集 第38回定期大会記念講演「育児とPTAで人生を豊かに」後編 11

講師 榊原輝重さん（NPO法人ファザーリング・ジャパン）

連載・PTAのABC（PTAの生い立ち③） 15

家庭教育応援団！⑳ 19

実践紹介1 「おやこ食育教室」

実践紹介2 「親子で学ぶ1週間～テレビ・ゲーム・パソコンから離れて～」

「多様性尊重の教育③」シリーズ みんな、いっしょに

岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 安田和夫

保健室ノート

山県市立美山小学校 養護教諭 高井かおる 23

私の先生㉑

北方町立北方小学校 校長 戸村和夫 25

子育て半生記

高山市立江名子小学校PTA副会長 加藤円 27

可児市のPTAふれあいニュース [vol.8] 29

可児市立今渡南小学校PTA

可児市立帷子小学校PTA

可児市立東可児中学校PTA

可児市立広陵中学校PTA

私が出会った1冊の本【続33】 31

垂井町立合原小学校PTA 清水早苗

七宗町立上麻生中学校PTA 会長 池戸洋太

わが家の約束 33

山県市立大桑小学校PTA 会長 山田正臣

下呂市立萩原南中学校PTA 会長 宮崎清

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い

羽島市立中島小学校 3年 高木悠輔

関市立上之保小学校 5年 波多野颯大

七宗町立神淵中学校 3年 中島強太

親の願い

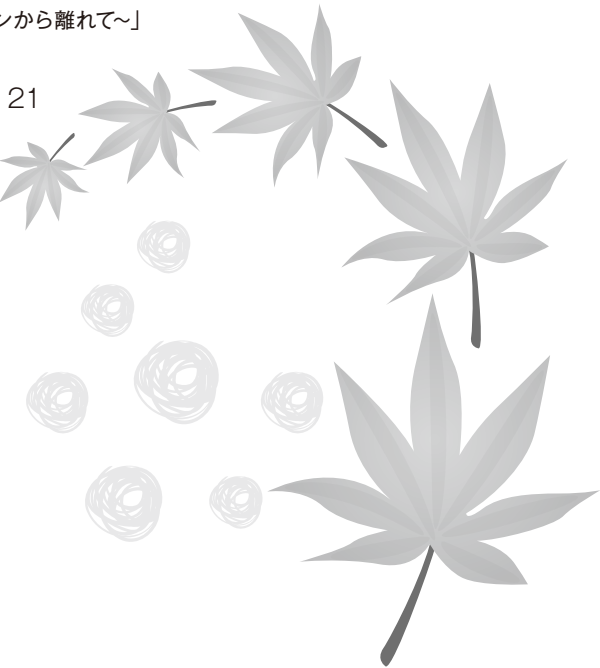
下呂市立菅田小学校PTA 会長 日下部裕

可児市御嵩町中学校組合立共和中学校PTA 副会長 水野哲也

教育の窓

飛騨市立宮川小学校 養護教諭 柴田祐子

岐阜市立岐阜清流中学校 教頭 北川量三



親子ではてな 40

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42

おからドーナツ

ふるさとの伝承 43

白川町立黒川中学校

きらり!キッズ! 45

美濃市立美濃小学校

夢中!熱中!我らが部活 47

岐阜市立岐阜西中学校

私たちのPTA 49

海津市立西江小学校PTA

わが家の宝物

中津川市立付知南小学校PTA会長
鷲見 佳紀



「まだ」と「もう」

りました。次第に私の出番も少なくなりました。小学校に入学するとなおさらです。最近の休日は時計を見ると「もう十時」です。とても虚しく短い一日に感じます。この「まだ」と「もう」の違いは何だろう？それは、子どもとふれ合う時間が多いか、少ないかなのだとやっと気がつきました。今後、「もう卒業」「もう二十歳」「もう社会人」そして「もう〇〇」……今、「あなたの宝物は何ですか？」と尋ねられたら「わが家の宝物は、子どもとふれ合う時間です。」と答えます。

娘たち……あなたが母親になった時、同じ宝物を抱いていられるように、お父さん……もう少し(?)頑張ります。

やがて、二人とも幼稚園に入り、遊び方が変わ

「まだ」と「もう」

わが家には六年と五年の娘がいます。二人ともまだ幼かった頃、たまの休日は朝から遊び相手をするのですが、長女は右へ歩み、次女は左へハイハイをします。また、何やら手にしているものを確認しては、取り上げたりと、一時も気が抜けませんでした。

どっと疲れて、ふっと時計を見ると「まだ十時……」早く昼寝してくれ！と願いつつ、長い休日を通じていました。

「育児とPTAで人生を豊かに」

後編

NPO法人ファザーリング・ジャパン

東海支部支部長 榊原輝重さん



親になる時、なった頃

さて、今日こうしてお招きをいただきまして、お話をさせていただいているわけですが、私が育児に積極的になったのは、というお話をしたいと思います。

私もサラリーマン時代がありました。どんなサラリーマンだったか、今思えば、まずは上の子どもが生まれる時、平成十五年生まれです。妻にこう言われたんです。「立ち会い出産をしてほしい」。分娩室に一緒にいる、それが立ち会い出産だと思っていたんですね。今では、大分広まっていますが、当時私はよく分かっていなかった。

一月三十一日。その日の朝、子宮口が4cmくらい開いてるからもうすぐよ、って言うのを聞きながら床屋へ行っちゃったんですね。すると電話が入って「やばいから病院行くから」って言うんで、あわてて戻って産婦人科へ行きました。

着くなり診察室から分娩室へ行っちゃったんです。そしたら看護師さんがバタバタと来て、「お

父さんお父さん、早く来てください」って言うから、「エッ、今お、義父さんを電話で呼んでるところですから」って言ったら「何言ってるんです、あなたがお父さんでしょ」って。お父さんと言われて、「あつ、俺がお父さんなんだ」と、そんなレベルでした。

立ち会い出産しました。すごいスピード出産で分娩室に入ったらもう頭が出ているような感じで、背中をさすらなくてはとか聞いていたんですがそんな事は全然なくて、頑張れ、頑張れって言うてたら十五分くらいで、スポッと出てしまったんですね。あつけに取られて「生まれたね」っていう感じでした。

あまり早い出産だったので、正直言って大きな感動が無かったんですね。病室に戻って、妻に言っではいけないことを言っしまいました。「良かったね、楽で」って。「楽な訳ないでしょ！ものすごく痛いんだから！」って叱られました。僕は「時間が少なくて」っていう意味で言ったんですが、妻からするとそうではなかったんですね。

す。母は、今、克服して元気です。

父親は手術をしたんですけど、闘病の日々を送りました。喉のガンだったものですから喉を取っちゃったんです。しゃべれない。喉に穴をあけて、苦しくて、しんどそう。父は毎日日記を書いていて、私は後になってそれを読んだんです。パパスイッチが入ったのはその時です。

両親がガンになったのですからサラリーマンを辞めざるを得なくなり、看病とともに、父が小さな会社をやっていたものですからそれを継がなくてはいけなくなりました。心構えが変わると、出会いが変わるんです。有り難いことに、色々な人に助けられました。

父親になって気づいたこと

今、中三の女の子と小五の男の子がいますけど、一つ目は、見守ることの大切さに気づくことができました。もう一つは、命には限りがあることも知りました。

見守ることの大切さ。父性と母性という言葉があります。これは父親が父性で母親が母性という訳じゃないと思います。両方持っていると思います。

母性ってどんなもの？っていうと、私は「無条件に子どもをギュッと抱きしめること」だと思います。例えば、よちよち歩きをしているわが子、足元に石があって、転びそうだという時に石を取り除いたり、つまりいたらサッと手を伸ばしたり

する。これが母性になって思うんです。

父性はどうか。父性とは「行って来い」って、温かく見守ることかな、と思います。先ほどのつまりいて転んだ。転んで泣きながら立ち上がった。その姿を見て「よく頑張ったね」と言っただけのこと。これが父性かな、って思っています。

子どもから教わったこと

丁度、父がガンで治療生活に入った時、看病もあるし、共働きですから子どもを一歳一カ月で保育園に入れました。七時に預けて七時にお迎え、朝一番に行って、一番最後までいるんですよ。大変でしたから、保育園にお任せでした。

すると、だんだん笑わなくなりました。ある時、夕方五時過ぎに迎えに行くチャンスがあったんです。いつもよりちょっと早く迎えに行く訳ですから、私は娘が喜んでくれるだろうな、と思ってたんです。でも、いつも通り、ムスリしてらんです。

だけどその時、園庭を出ようとすると、娘が「ちよつと遊ば」って言うんです。私としては、いろいろ抱えていましたから早く帰りたいんですけど、ちよつと付き合ってみようと思ったんです。娘と園庭で、いろいろ一通り遊んで、ようやく外へ出ました。すると「あつちにタンポポがあるから、一緒に見に行こう」と言うので、一緒に行きました。「トイレに行きたい」というので、待ちました。

サラリーマン時代の僕は、そんな感じでした。

平成十五年は、ドラゴンズから星野監督が阪神タイガースに来てくださって、優勝した年なんです。私は名古屋に住んでいますが、ドラファンではなくて父親の影響からトラファンなんです。秋、お爺ちゃんが買ってくれた阪神タイガースの帽子とユニフォームを着た娘が、私と一緒にテレビを見ていました。赤星が打ちました！勝ちました！優勝！全国のファンの熱狂をテレビが映し出し、私も思わず感激のあまり涙してたんです。

妻は、そこを見逃しませんでした。「アンタさ、子どもが生まれた時に泣かないで、タイガースが優勝したら泣くわけ?!」って。「はい、すみません」。

「パパスイッチ・オン」

こんなサラリーマン時代の私でしたが、「パパスイッチ」が入ったのは、子どもが二歳の時でした。私の父親と母親が同時にガンになりました、一カ月もたたないうちに両方とも手術したんで

そんなことが色々あって、たくさん道草をして家に帰りました。結局帰ったのは、いつもの通りの七時を過ぎていました。

その後、娘の態度が変わったんです。ちよつと心を開く、っていう感じかな？お父さんが、自分が言うことを、ちゃんと聞いて待つてくれた、ということが、どうも分かったらしい。やっぱり、何かが伝わってたんですね。

小さい頃、あまり構われなかったです。だけど待つことによって気がついた。待つてあげること、この子の信頼を得られるんじゃないだろうか。ということ、娘がやることを大人の感覚で見るとはなくて、待つて、すべて彼女がやることを見てあげよう、受け止めてあげよう、って思ってたんです。

お父さん、お母さん大変そうだと分かってたんです。子どもって、すごいと思いました。

見守ることの大切さを、小さな子どもから学ばせてもらいました。

子どもたちに何をさせるか 子どもたちに何を残すか

命には限りがある。当たり前かもしれませんが、人は必ず死にます。早いかわいかなだけだと思います。

親として、最悪の不幸ってなんだろうって考えた時に、私は子どもに先に死なれることかな、と思います。これは、辛いことです。親が先に死ぬってことは、ハッピーかも知れません。先に死ぬか



からこそ、私たちが生きている間に、子どもたちに何を見せるか。そして、この子どもたちに何を残すか。というのが、大事ななと思うんです。

私は、子どもたちを育てながらこう思いました。だから今、皆さんの前で話しているのかもしれない。

父は喉のガンで喋れなかったものだから、日記を書いていました。辛い毎日のことの中にも、いくつか楽しいことも書いてありました。

小児ガンのゆりっぺ

私には、東京に料理研究家のパパ友がいます。その方には、女の子が二人いらつしやるんです。上の子はうちの子の一つ下。ゆりっぺ、っていう愛称なんです。ゆりっぺが小学校一年生の三学期の時に、頭がクラクラすると言って、真つすぐに歩けなくなっちゃったんです。それで病院に行つて、精密検査をしたらお医者さんが言ったんです。『小児ガンです。小さいガンが頭の脳の中にいっぱいあって、手術では治せない』で、お薬で治すことになりました。

ガンのお薬って、キツイですよ。吐き気もある、気持ち悪い、毛も抜ける、頭が痛い。でも頑張ったんです。ゆりっぺ、こう言ったそうなんです。『いつか、もう一回、ランドセル背負って学校へ行きたい』。二年生の時、これが彼女の夢だったんです。でも三学期に、天国に行っちゃいました。

「有難う」と「在難う」

料理研究家の彼が、会うといつも言うんです。『家族揃つて、朝ごはん食べてますか?』『食べてるよ』って言うのと『そんな幸せって無いですよ。ね』。『当たり前』に朝が来て、『当たり前』に学校に行つて、『当たり前』に友達と喋つて、『当たり前』に家に帰る。『当たり前』にお母さんがご飯を作つて待つてくれる。それって、本当に当たり前なんだろうか。』。当たり前前って言うのは、何もしなくてもそ

一月三十一日。娘の誕生日なんです。誕生日おめでとう。小学校に上がる時は、ランドセル買つてやるからな。

三月十日。輝が来た。私のことです。マサカズさん(妹の婿さんです)も来てくれた。うれしいなあ、もう帰っちゃうのか。ゆつくりしていけばいいのに。

五月二日。母ちゃんに励まされた。母ちゃんも辛いだろうに、すまないな、ありがとう。

同じガン同士で、同じ病院にいましたが、父の方がちよつとステージが進んでいましたから。最後の頁です。娘が三歳の夏。七月二十四日でした。父の状態があまり良くないということで見に行つたんですが、それでも見舞客の応対をしてるくらいでしたから、まだまだ元気かなと思つたんですが、先生から言われたんです。『ご家族、東京の方も皆さん呼んでください』。もう間もなくです、つて言うことですね。

半月ほど前に妻が産婦人科に行つて、次の子がお腹にいます。それが分かつたんです。そのことを、父に伝えました。すると、りりか(娘)に弟ができること、おめでとう。一人だと思つていたが、ようこさん(妻)も頑張つてくれそう。近來には無い、大ニュースです。

六月末には、まだ男か女か分かるはずがないです。でも父は男だと思つたんです。父の最後の夢は何だったでしょう。それは大の虎キチでしたから、『男の子の孫と日本シリーズを甲子園で見る』でした。

ここにある状態だと思います。つまり、何時もあるつていうことです。だから在ることが普通。だけど、当たり前前の反対を考えると、『在ることが難しい』ということですよ。そもそも、あることが難しい。漢字で書く『有難う』です。でも私はこうだとも思います。存在すること自体が難しい。『在り難う』。有るはHaveです、持つていること。在るはBeです。あなたがそこに居てくれるのは、ものすごく在り難いことだ、と。勉強ができません。でもいい。スポーツが苦手でもいい。ただ、君がそこにいてくれるだけでいい。在難う、だと思います。

父親の闘病日記に書いてあったこと、何が人生で幸せだったか。車を持つこととか家を買うこととか、お金を持つこととか名誉を持つこととか、そんなことでは全然なかった。ただ、家族の笑顔に囲まれること。それが人生で最も幸せに思えたことだった。と書かれていました。

親からは、必ず伝わるものがあると思います。私も父から、いっぱいいろんなものをもらっていました。それに気づけました。

教育とは何でしょう。私は、子どもの未来をつくることだと思います。こうして皆さん、今日も集まつてPTAの大会でいろんなことをシェアしてやっていることも、学校の先生がやっていることも、皆そうじゃないですか。子どもの未来をつくるためだと思います。

この後、夜中に意識が無くなり、三日後に亡くなりました。

次の年、生まれてきたのは男の子でした。

人の死亡率は一〇〇%、必ず死んじゃいます。父は六十六でしたけれど、日記を読んで私思つたんです。親として子どもに何をさせるか、何を残すか。つていうのを、闘病生活から思い知りました。

当たり前前の話

私は、父からいっぱい愛情をもらつていたことを知りました。でもその恩を返す相手は、いなくなつちゃったんですね。だから、いただいたものを私は次の世代、この子たちに、わが子だけじゃなくて次の世代を担うこの子どもたちに、贈ろうと思ひました。

人生で最も幸せに思えることつて、何でしょうか。当たり前前の反対、つていうことを考えてみたいと思います。

子どもが通う小学校の卒業式には、一人ずつ呼ばれて壇上に上がり、校長先生から証書を受け取ります。受け取つたら、踵をパツと返して、みんなに向かつて将来の夢を、大きな声で言うんです。みんな、素敵な夢が多いです。お医者さんになつて人を助けるとか、ゲームを作つて世の中の人を楽しませてあげたいとか、みんなが言つてくれます。皆が感動します。

私もPTAの会長としてご挨拶をした時、こんなお話をさせていただきました。当たり前前の話です。

お父さんの弁当箱

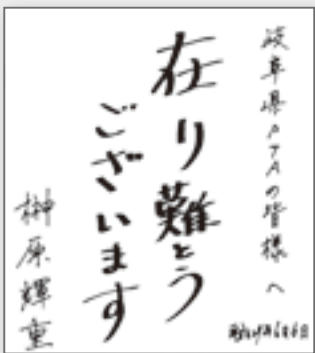
ここで、『ぼくとお父さんのおべんとうばこ』という作文を紹介したいと思っています。これは平成二十二年「第四回いつもありがとう作文コンクール」で最優秀賞に輝いた広島市に住む小学校一年生の片山悠貴徳君の作文です。

註・作者の都合により作文の掲載ができませんので、主催者「朝日小学生新聞「いつもありがとう作文コンクール」のウェブサイトでご覧ください。(編集部)

幼い子どもにとつても、父親は特別な存在なんだつて、改めて思ひ知ります。そして子どもはいつしか成長して、いつしか大人になり、そして親になつていきます。お弁当箱に詰められた思い、お弁当箱からくみ取る思い、七歳の子にもしっかりと受け継がれています。

親から、必ず伝わるものがある。命の有り難さと生きている素晴らしさ。それだけは、伝えていつてほしいと思います。ご清聴、ありがとうございました。

完





(9) 保健衛生の状態がよくなる

子どもたちが健康であることは、両親の最大の幸福のひとつである。そこで子どもたちが常に健康を保つように気を配ることは、「父母と先生の会」の一つの仕事である。それには、自分たちの市や町や村

の保健衛生状態を充分に調査し、保健衛生のための施設を整備して、市町村全体を健康な所にするのが大切である。

そして必要に応じては、当局に申し出てこの方向に国や自治体に大いに努力してもらう。また、巡回診療所を開放したり、保健婦を置くとか、あるいはまた講習会などを開いて、病気の予防、早期発見、応急手当などについて習ったり、健康増進や衛生について相談をしたり、公衆衛生や衛生思想の涵養に努めたりする。更に学校衛生や医療設備の整備など、子どもたちの保健衛生の設備について、国や公共団体の関心を高めて適当な方法を講じてもらう運動を起こすこともよい。

このように「父母と先生の会」を通じて子どもたちが幸福になるとともに、各自が保健衛生問題について注意をするようになって、その結果、流行病その他の病気も減少し、市や町や村の衛生設備も次第に整って、保健衛生状態も良くなっていき、皆が幸福になれる。

(10) 学校給食をうまく実施できる

学童に対して、学校で温かい昼

食を供給することは、發育盛りの少年少女に必要な栄養を補給する上からも、是非とも願わしいことである。特に貧困な児童に対して、これがどれほど明るい気分を与え

るか知れない。活発な子どもをつくるには、何よりも栄養を与えなければならぬ。学校給食に関しては学校でそれを工夫しているが、この学校給食を「父母と先生の会」が中心となって世話をし、父母が先生とともに献立や調理にあたるようになれば、栄養その他からいつでも好ましい給食ができるとともに、心からの温かい、柔らかな雰囲気

が生まれてくるであろう。また学校で食事の作法や正しい食事のとり方を習うことは、同時に家庭での作法や手伝いへの指導ともなり、父母にとっては子ども

(11) 学校が美しくなる

の栄養についての合理的な知識を得たり、合理的な調理法を習得するよい機会ともなるであろう。

教育にはその環境が大なる影響をもっている。整頓された教室、掃除の行き届いた校舎、清潔な校庭、手入れの行き届いた花壇は、そこで育つて

(14) 父母と先生の間柄が親密になる

親密になる

児童生徒のことで、父母と先生が絶えず会合する機会や相談する回数が多くなると、双方の親しさが自然に増してくる。今までは父母と先生は、ともすると充分に知り合っておらず、また知り合っても自分の子どもを先生に良く思われよう、悪く思われまいとして、本当のことを打ち明けて相談するということせず、何か儀礼的な面が少なくないように思われる。これではいけない。他人に対する迷惑や見栄から、よそよそしい交際ではなく、打ちとけた談合の機会が父母と先生に多くなることは、子どもたちの教育上にどれだけ貢献するか知れない。この打ち解けた気分は、やがてまた先生

の間も「父母と先生の会」によって、親密さを増すようになる。子どもは感化され易いものであるから、友達次第でよくもなれば、また悪くもなる。誰でも自分の子どもは良く思いたがり、自分の子どもも本位に物事を考えがちなものであるが、自分の子どもが友達に悪い影響を与えているかもしれないし、また悪い友達があればいつの間にかこれに感化されて、知らぬ間にとり返しのつかぬ破目に陥ることにもなる。

だから人の子どもを可愛がり面倒をみることは、それがやがて自分の子どもを可愛がり、良くすることにもなる。自分の子どもが良くなれば、その友達も良くなり、その友達によい感化をあたえて、その父母から感謝されるようになる。だから会員である父母たちが、子どもの教育について先生を交えて語り合い、親密になればなるほど子どもたちをお互いに良くすることに励み合い、協力する気持ち

(15) 会員相互が親しくなってお互いに助け合う(気持ちが出てくる)

父母と先生の間だけでなく、学校に通っている児童生徒の父母の

(13) 児童生徒の職業指導の役に立つ
各自が自分の才能と個性に適した職業に従事できることは、人生の大いなる幸福である。自分の仕事に興味をもち、自分の能力を伸ばしていけるならば、人生は常に明るく楽しい。自分の職業に興味

いく児童生徒の心をも美しく豊かにする。荒れ果てたままに放置された校舎や校庭は、児童生徒の心をすさませるばかりである。

「父母と先生の会」では、校舎や校庭の美化に心を配り、その修繕や改造について材料を寄付したり、それぞれの職業を通じて労力を提供する。少しの工夫と手入れで教室は見違えるように美しくなり、なごやかになる。父兄の中には、大工さんもあるだろうし、建具屋さん

(12) 児童生徒のために学校外で娯楽のプログラムを作る
児童生徒が校外で楽しい生活ができるように「父母と先生の会」が中心となって世話をすることは大変望ましいことである。児童生徒が健全な社会人になるためには、豊かな情操を身につけることが大

密さの中から、気の毒な人を助け、苦楽を分かち合おうという気持ちもまた自然に生まれてくるであろう。

3 結び

このように、学校の児童や生徒の幸福の増進を目的として組織された「父母と先生の会」は、子どもの幸福のために働き、いろいろな施設をなし、そのためにならな

い悪い状態をとりのぞく。従って、それは学校のある市や町や村を、つまり社会を浄化し改良していくことに広がっていく。

自分の子どものことを考えるとともに、人の子どものことを考える。自分の家庭のこととともに、隣人の家庭のことも考慮する。自分のこととともに共同体である市町村のこと、社会のことを心にかける。市や町や村が良くなることは、自分が良くなることであり、自分の子どもが健全に明るく、希望に充ちて幸福に育っていくことである。

また子どもが良くなるには父母が立派になり、家庭の生活が向上し、大人の世界が健全にならねばならない。私たちのため社会を正しくしていく。教育的でないもの

を社会から取り除いたり、教育になることを社会へ奨励したりする力と権威がどこかになくてはならぬが、「父母と先生の会」は、まさにこのための絶好の組織であろう。

学校を単位とした「父母と先生の会」がたくさん出来上がり、これが市町村ごとに、更に府県ごとに連絡をもった大きなまとまりとなつて拡がり、最後に全国父母と先生の会協会が設立されるようになれば、「父母と先生の会」は非常に活発な活動を繰り広げること

できるし、大きな力となつて教育の振興に、更には社会改良運動に貢献できるであろう。

民主主義の新しい日本、美しく、楽しく、住みよい日本を創り上げるための一助として、私たち「父母と先生の会」を作り、力強い活動をこれから始めようではないか。

第一回社会教育研究大会

確かに「父母と先生の会」―教育民主化への手引き―は満を持して放ったPTAの第一矢であった。しかしこの矢が学校の的に達する

には二、三カ月を費やした。その頃各県には教育委員会はできておらず、教育行政は教育民生部が所管

について、筆者が文部時報に書いた一文には、こう記してある。

『二体、何の必要があつてPTAをつくるのか』『PTAと父兄会とどこが違うのか』『そもそも、PTAの目的は何か』『PTAは司令部の命令で作られなければならないのか』『PTAは金集めの機関か』などの質問があつて、指導者側の人々を面食らわしたところもあった。

しかし、よくよく考えて見ると、こうした素朴な質問の中にこそ、日本のPTAの現実の姿が示されており、同時にまた、一見否定的にみえるこうした率直な言葉の中にこそ、健全なPTAの芽生えがひそんでいたのではなからうか。

経費の問題もボスの問題も会員の無関心の問題も連合体の問題も、

していた。文部省から通達があつて、各学校に伝えよといわれても、これを複写するだけでも容易ではなかった。

その後、社会教育連合会からこの通達の全文がパンフレット（定価四円）になつて出たので、これによつて全国的に普及が促進されたとと思うが、それも六月末のことであつた。

このような問題を一挙に解決して、PTAの結成が全国にこだまするように広がるきっかけを作つたのは、第一回社会教育研究大会だつた。これは五月から七月にかけて各都道府県に二カ所ずつ、一会場三日半のプログラムで、全国九十二カ所で開催された大規模なものであつた。

参加者は各種団体はもちろん、学校関係者あり、新聞記者あり、労働組合あり、宗教家あり、社会福祉関係ありで、これに応じて内容も新しい六三制の問題あり、民主主義の解説があり、社会問題がありというわけで、あつというほど多彩なものであつたばかりでなく、その進め方がまたバネルあり、シンポジウムあり、フォーラムあり、講師もまた入れ替わり立ち替わり各方面のフレッシュな顔ぶれ

で、まさに戦後の新しい社会教育の豪華絢爛たるデビューだったのである。

このプログラムの一角を飾るものに「父母と先生の会」があつた。上記の「父母と先生の会」―教育民主化への手引き―が資料として全参加者に配布され、講師はほとんどの会場において軍政部の教育課長自らこれにあたつた。もちろん通訳つきであつた。

今から考えるとおかしいようだが、このような大会がもたらした印象と効果は、すばらしいものがあつた。

PTAの普及年

昭和二十三年という年は、PTAにとつて誠に多事な年であつた。前年度からの引続きとして「父母と先生の会」委員会の審議が軌道に乗つてきたし、五月から七月まで開催された第二回社会教育研究大会では、PTAに関する討議はますます活発の度を加えた。たいていの都道府県では、この大会に引き続いて郡市別の大会が開かれるので、世はまさにPTA時代、文字通り津々浦々までPTAの風が吹き渡つたと言えるよう。

筆者など一視学官として、普

通なら記者クラブとは何の関わり

合いもないはずだが、各社の記者が先を争うように取材に来たものだつた。それほどPTAと言え

ばニュースバリューがあつたからだ。例えば二十三年三月二十八日の毎日新聞の社説「PTAへの理解と協力」の一節にはこんなことが書いてある。

「依然として町のいわゆる有力者や顔役やインフレ利得者がそれを牛耳り、あたかも会の唯一の目的であるかのごとく、半強制的に寄付金を割り当てたり、学校当局もまた財政的な窮迫からそれをほお

かむりで歓迎するといったところも少なくないという。」

また、前記第二回社会教育研究大会を通じて見たPTAの実態に



PN. 96描 (高山市)



長井智也 (養老郡)

QUESTION -1

朝日と夕日では、どちらが重いでしょうか？



出題・木戸 晨太郎 (羽島市)
〈答えは41ページ〉

昭和 23 年の P T A 普及度	小	中	高	計
P T A のみの学校	68	67	43	65
P T A と旧来の父兄会等と併存する学校	16	13	16	17
旧来の父兄会等だけの学校	15	17	35	17
PTA も旧来の父兄会等もない学校	1	1	3	6

註 (1) 数字は小・中・高各学校の全国数に対する百分率を示す。
(2) これによると、1 年間に、全国の小中高の 82% に P T A ができたことが分かる。

※「岐阜県 PTA30 年の歩み」より

実践紹介2 瑞浪市立日吉小・中学校

ポイント 学びの広がり・深まりがいっぱい！
「親子で学ぶ1週間～テレビ・ゲーム・パソコンから離れて～」

- ①親子一緒に ②幼・小・中合同開催で一斉に ③今年で3年目、継続的・発展的に
④活動後には通信で全員に情報を共有して学び合う

今年度もゲームやテレビから遠ざかり、より健康的な生活のあり方を考えてもらいたいとPTA母親委員会が企画しました。特に今年は3年目ということで、生活習慣作りのカギとなる乳幼児期の親子(幼稚園)にも声をかけ、合同開催としました。

子どもたちの生活実態を受けて企画

企画に込められたPTA母親委員会の願い

年3回の中学校の期末テスト期間にあわせて実施して3年目

取組の様子はお便りで後日お知らせ

幼・小・中合同開催

日吉小中・幼児園合同開催
小中PTA母親委員会企画

「親子で学ぶ1週間～テレビ・ゲーム・パソコンから離れて～」実施要項

- 1 取組のねらい
昨年度の日吉小中学校の生活調査から、依然としてゲーム所持率の高さやテレビの視聴時間、ゲームやパソコン・ネットの使用時間の長さが、子供達の学習意欲を下げてしまう一因ではないかと、感じています。同時にこのような生活時間の使い方をしている、家庭学習の時間の確保も難しく、学力の低下も危惧されます。
- そこで、今年度も少しでもテレビやゲームなどから遠ざかり、学習意欲を高め、より健康的な生活のあり方について考えていただくと共に、学習や読書ができる環境をつくっていただくきっかけになればと思います。このような取組を実施します。

- 2 取組の内容
実施期間 第1回 6月5日(月)～12日(月)
第2回 11月13日(月)～20日(月)
第3回 2月13日(火)～20日(火)
(中学校の期末テストに向けた取組期間と合わせ、年3回計画します)

取組内容 この期間に各家庭で相談して、保護者もテレビを見ない時間やゲームをしない時間を決めたり、その時間に家庭学習や読書などを行ったりします。上日には、一緒に料理をしたり、運動をしたりするのもよいでしょう。

例えば、

学 年	取 組 内 容
幼 児	絵本の読み聞かせを 続ける。
小学校低学年	一緒に読書をした。本の読み聞かせをする。
小学校高学年	子供は家庭学習、読書をして、保護者は読書をする。
中 学 生	子供は家庭学習をして、保護者は読書をする。
上・日曜日	一緒に料理をする。運動をする。

上記の内容は一例ですので、各ご家庭で相談していただいて内容を決めていただきたいと思います。中学生は、期末テストに向けての取組期間でもあるので、それぞれの計画に沿ってテスト勉強をすることになっています。

- 3 取組の記録と提出
取組時間と内容及び取組についての感想を記録できるカードを配布します。取組状況を記録していただき、回収して、母親委員会目を通し、結果や感想を母親委員会からのお便りで配付します。

保護者が取り組む具体的な内容を例示

アレンジの施された実践カード

クラブや歌舞伎がある日も自分で決めた計画通りコツコツ頑張っている姿にお母さんも身の引き締まる思いでした。

実践カードには子どものがんばりを認める保護者からのコメントが大変多く、ノーマディアの達成だけでなく、取組を家族の時間をもつきっかけにされた家庭が多かったことがよくわかります。生活習慣を見直しながら家庭内のコミュニケーションを深める素敵な取組です。

県のホームページでは家庭教育に関わる情報を発信中！ぜひご覧ください！！

岐阜県 家庭教育学級

検索

お気軽にご相談ください！

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

環境生活政策課 ☎058-272-8752(直通)
西濃県事務所 ☎0584-73-1111(内線219)
中濃県事務所 ☎0575-33-4011(内線210)
可茂県事務所 ☎0574-25-3111(内線208)
恵那県事務所 ☎0573-26-1111(内線208)
飛騨県事務所 ☎0577-33-1111(内線206)

実践紹介1 養老町立池辺小学校

ポイント おみやげいっぱい！「おやこ食育教室」

- ①食について学ぶ ②安全について学ぶ ③コミュニケーションが深まる
④子どもの主体性を伸ばす

地域の方を講師として迎え、「おやこ食育教室」を開催しました。講座の目標は「子どもが主体的に活動すること」と「親子のふれあいを通して、互いのよさを見つけ、交流すること」でした。

オリエンテーション

親子で料理

終わりの会

◇野菜や食事に関するクイズ

(Q.夏の野菜の『おくら』は何語かな？→A.英語、Q.茄子の原産地はどこ？→A.インド、など)

◇安全についての話

(安全な包丁の使い方、食中毒への対応、水分補給について)

◇献立の説明

◇献立

かわいいツナマヨウインナー餃子、夏野菜のサラダ、お吸い物、豆腐ドーナツ

◇よさみつけ(一部紹介)

「野菜を切ることも、後片付けもよくがんばりました。自分で作った料理はとってもおいしかったね。また作ってね。」(母)

オリエンテーションと実習を通して親子で「食」や「安全」についてしっかり学ぶことができました。また、「よさ見つけ」を位置付けることで、親子のコミュニケーションが深まりました。活動後「よさ見つけ」カードを交換する時には、部屋中に素敵な笑顔が広がりました。同時に、地域の方々から教えていただくことで、地域の方々と親子のコミュニケーションが深まったことも大きな成果でした。

また、下の写真のように「心配しながらも手を出さず見守る」保護者の姿勢が徹底され、「子どもが主体的に活動する」ねらいが見事に達成されました。時間を十分に確保し、ゆとりある活動に仕組まれたことが、あわてることなく、子どもたちが主体となってじっくり取り組む成功の鍵であったと思います。

体験型の家庭教育学級に学校の取組「キラリ見つけ」と連動した「よさ見つけ」や「地域人材の活用」、「活動時間の確保」などの工夫を加え、親子に多くの学びをもたらした、すばらしい実践です。



【多様性尊重の教育③】シリーズ みんな、いっしょに

特別扱いではなくて、どの子も実力を発揮できる環境づくり

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

岐阜市立明郷小学校の すばらしさ

私は、卒業論文で、難聴の障がいのある兄弟姉妹の言語発達についてまとめました。その際、岐阜市立明徳小学校（注：現在は本郷小学校と統合し、明郷小学校になっています）の難聴学級に度々通わせていただき、ご担当の村瀬先生のご指導を受けました。

明徳小学校、そして、現在の明郷小学校に、着実に引き継がれていることの一つが、特別支援教育の充実であり、県内の小中学校における特別支援教育を常にリードしてきたと言っても過言ではありません。特に、ことばの教室（言語通級指導教室）と難聴学級（難聴特別支援学級）が揃っており、関わっている先生方は、この分野におけるセンター的役割も担っておられます。

しかし、素晴らしいことは、それだけではなく、障がいのある子どもたちと共に学び共に生活する

通常の学級の子もたちの心も大きく育っていることです。障がいのある仲間を特別扱いするのではなく、一定の配慮や気遣いさえあれば、「みんないっしょだよ」という認識が低学年から育っていることです。

一緒に遊ぼう 一緒に学ぼう

先日、二年生の学生を引率して、明郷小学校の特別支援教育を学ばせていただいた時、素敵な場面に遭遇しました。

給食後のお昼休みのことです。知的障がい特別支援学級に遊びにやってくる児童が何人かいました。「一緒に遊ぼう！」「いいよ！」

折り紙が得意な男児に、昆虫や動物を折ってもらう子もいました。気が合う仲間同士で、楽しく話をしている子もいました。その姿は本当に自然で、障がいの有無や在籍学級の違いを全く感じさせ

ませんでした。

十分も過ぎたころ、母国がフィリピンの児童が中心となり、簡単なタガログ語の紹介が始まりました。数人の児童が囲みながら興味深く耳を傾けています。その時、ある児童が「フィリピンの人の肌の色はこげ茶色だね」という発言をしました。すると、すかさず、タガログ語の紹介をしていた児童が「それは失礼な言い方だと思います。傷つく人がいますから、言わない方がいいと思います。」とはっきりと意見を言ったのです。

こうやって、多様性尊重を、子どもたち同士の中で、互いに学び合っていると強く感じました。障がいがあってもなくても、どの国の生まれでも、お互いを理解し合い、お互いを尊重することが大切です。学校が、地域が一体となって、多様性尊重の教育をしておられる成果の表れでもあったと感じました。

拒む学校がまだあると聞いて、とてもびっくりします。

子どもたちは、級友である仲間一人ひとりの抱える困難さを正しく理解し、その軽減のために、自分たちができることを知り、主体的にその解決に関わることで、「みんないっしょ」という心が大きく育っていくのです。明郷小学校の児童の姿はその証です。

不透明な時代だからこそ、互いの違いを理解し合い、共に生きる知恵を共有し合うことが求められているのだと思います。

「フルーツバスケット」も 「みんないっしょ」に

明郷小学校では、難聴の児童と共に学んだり共に生活したりする機会が多いため、一年生から、「きこえの障がい（聴覚障がい）」について、みんなで学ぶ時間を設定しています。

「聞こえにくい」とはどういうことなのか？補聴器や人工内耳はあるものなのか？聞こえにくさのある仲間にとって、どんなことをみんなに協力してもらうことで一緒に学んだり生活できたりするのかを、具体的に学ぶのです。

初めて難聴学級を参観した学生にとっては、見ることに聞くことすべて感動なのですが、特に、この「一年生から聴覚障がいを学ぶ時間があること」には、心を強く動かされたようでした。

難聴学級の児童が交流学級で共に学ぶ様子を参観した学生のレポートの一部です。

○通常学級の先生方は、難聴学級の児童がいる授業では、「ロジャー」を使って授業をする

ことが当たり前という雰囲気があった。子どもたちも、発言する児童に「ロジャー」を回すことが自然にできていた。また、聴覚障がいのある児童本人が、「ロジャーを使って！」と同級生に気軽に言っていたことにびっくりした。障がいのあることに対して隠しがいになる人もいらっしやると思うが、自ら発信し、要求していたので驚いた。

注：「ロジャー」とは、補聴援助システムで、デジタル無線方式により、マイクを通した話声が補聴器や人工内耳に直接届くため、周囲の雑音に左右されにくく、聞こえをクリアな状態にするもの（商品名）

○クラスの児童らが「ロジャー」をあまりにも自然に活用していることに驚いた。休み時間

共に学び生活する中で 成長する

しかしながら、保護者が学校にこうした機器の使用を願い出ても、「先生がマイクを使うことなんてできません。」「子どもたちの発言の際に、マイクを回すなど、特別扱いはできません。」と、補聴援助システムの使用そのものを



野澤愛璃子（海津市）



P.N. TOMOSABURO (養老郡)

QUESTION -2

食べると安心する
ケーキはな〜んだ？



出題・大平 修也（海津市）
〈答えは41 ページ〉



school infirmary

保健室ノート

●山県市立美山小学校
養護教諭
高井 かおる

美山小学校は、旧美山町の小学校三校が統合し、平成二十二年に開校しました。どの学校も歯と口腔の健康づくりに取り組んでおり、開校当初からむし歯の数が少ないことが自慢の一つです。平成二十三年度からは、歯と口腔の健康づくりの取組を核とした、よりよい生活習慣づくりに取り組んでいます。

今回は、本校の自慢の一つである「歯と口腔の健康づくり」への児童保健委員会の取組の一部と、PTA家庭教育学級とタイアップして取り組んでいる「はやくねよう&アウトメディア」についてご紹介します。

地域へ広げよう！
歯と口腔の健康づくりの輪！

小学校で取り組んでいることを地域へ発信！ということで、昨年度は委員会の

ふれあいの時間（スポーツ・テーブルゲーム・読書など）をもつことにしました。

〔子どもの感想より〕

・家族と話す時間をたくさん作れました。夜やごはんの時にも、みんなで話すようにしました。

・家族でトランプ、なぞなぞができてうれしかったです。またやりたいです。

〔保護者の感想より〕

・アウトメディアは、なかなか難しいですね。ゲームをするのが生活の一部になってしまっているの、なるべく体を動かしたり、TV・ゲーム以外のことで遊んだりするよう心がけたいです。

・お手伝いをたくさんしてくれましたが、

合言葉は

「自分の健康は、自分でつくる！」

子が作成した歯と口の健康ポスターを地域の公共施設・事業所・お店に貼らせていただきました。今年度は「歯と口の健康標語」を全校児童に募集し、優秀作品を保健委員会が選考しました。選考された優秀作品を、昨年度同様、地域の公共施設等に貼らせていただこうと考えています。

「はみがき名人」を見つけよう！

本校では「みがき残しのないはみがき」をめざし、すべての歯を順番に三週でみがく「三週はみがき」を勧めています。毎年、年度初めに保健委員会児童が担当学級へ出向き、そのやり方を指導します。指導された子どもたちは「三週はみがき」を実践し、保健委員会の子が、みがき残していない子を「はみがき名人」に認定します。一学期は九人の子が「はみがき名人」に認定されました。

保健委員会の子たちが、低学年の子に

スマホを見る時間が長いです。

妹と遊んだり、犬の散歩をしたりなどで体を動かすことができたので良かったです。

本校の子どもたちは「自分の命は？」と

聞くと「自分で守る!」、**「自分の健康は?」**と聞くと**「自分でつくる!」**と答えます。声をそろえて答えてくれる子どもたちを、とても頼もしく思います。しかし、食事や睡眠などの生活習慣を、子どもだけで改善するのは難しい部分もあります。子どもたちは、学校と共に家庭や地域で育っています。「自分で!」と切り切る子どもたちの意識を大切にしつつ、家庭の協力や地域の育みを得ることが大切だと考えています。これからも、主体的に



自分の健康づくりに取り組むことのできる子どもを育て、学校から家庭・地域へ健康づくりの発信をし続けたいと考えています。

ブラークテスト液を塗ってあげたり、優しく手を添えてみがき方を教えてあげたりなど、ほほえましい姿が見られます。この取組は、学校内に留まらず、保育園へ出かけ、保育園の子に歯みがき指導をしたり、歯みがき予防劇を見てもらったりなど、地域へも活動を広げています。

「はやくねよう!&アウトメディア」の取組

よりよい生活習慣づくりの取組として、生活リズムチェックを実施しています。今年のPTA家庭教育学級の取組の重点が「はみがき」と「情報モラル」についてということもあり、夏休みは、タイアップして取り組みました。夏休み前の授業参観日に、家庭教育学級主催の「情報モラル講習会」を実施し、夏休みには家庭で話し合い、メディア（パソコン・スマホ・タブレット・ゲームなど）を使用する際の約束づくりをすること、メディアを減らした分で生み出された時間を使って、家族で



私もいつかこんな先生に

北方町立北方小学校 校長

戸村 和夫

「さあいいか、何でも聞いてこいよ！」

私が高校一年生のときの生物の授業は、毎時間、先生のこの問いかけ（というよりは「宣戦布告」）で始まりました。生徒の疑問に答えようと始まった五分間程度の「質問コーナー」ですが、徐々に何を聞いてもよい時間として定着していききました。高校に入学したばかりの私たちの心を解きほぐそうとされたのか、生物の分野に目を向けさせようとしたのか意図は定かではありません。いずれにしても、当時の私たちは、徐々に「難しい質問をして先生を困らせてやろう。」や「質問を多くすることで授業の開始が遅れば……。」という邪（よこしま）な思いでその時間を迎えるようになりました。

授業前の休み時間には、クラスみんなで、誰がどんな質問をするか、危険な（すぐに答えられてしまいそうな）質問はないか、質問の数は足りているかなど打合せをしたこともありました。最近のテレビ番組で「○先生が驚く初耳学」というものがありますが、よく似た趣旨のものとなりました。高校生になって、緊張した毎日を過ごす中、この時間はとても和やかで楽しみなひと時となったのを覚えています。

驚くべきは、先生がほとんどの質問に答えられたことです。生物の分野に限らず、世の中の出来事に至るまで、あらゆる分野の質問に答えられました。しかし、専門的な知識が必要となる質問になると、さすがの先生も、「わしもわからん。次までに調べておく。」や「そういじめるなよー。」と言って笑いながら降参されることもありました。すると、鬼の首をとったようにはしゃぐ仲間もいまし

たが、同時に、わからないことを素直に認める潔さや誠実な態度、生徒と同等な立場で接してくださる先生の人柄に親近感を覚えたものです。

私は中学生の頃、決して理科が好きな方ではありませんでしたが、この先生の生物の授業は違いました。学習している内容が、私たちの体や生命とどう関わっているか、身近なこととして驚きをもって学べるようにされていました。また、「何を聞いてもよい。」という安心感のある授業では、先生の「何か質問はあるか。」の問いかけを待つことなく、自由に質問ができました。いわゆる講義形式の授業でしたが、先生と生徒の対話で授業が進んでいったのを覚えています。ただし、先生と一部の生徒だけのやりとりで授業が進みだすと、他の生徒を指名して「おまえ、ぼーっとして聞いとるけど、わかつとるんか。じゃあ、おまえ説明してみろよ。」といった具合にクラスのみんなを巻き込むことを忘れない先生でした。

先生は、いくつかの高校で教鞭を執られた後、校長を最後に退職されました。その後、不登校やひきこもりの子どもたちを受け入れる私塾「恕心館（じょしんかん）」を設立されました。教員となった私は、縁あって、青少年育成者を対象とした研修会に先生をお招きし、「心ここに在らざれば」と題して講話をしていただきました。当時の私の手帳にはこんなメモが残されていました。

「子どもの心を育てるには、大人の忍耐強い関わりが大切。『早く・だめ・勉強しなさい』といった指示の多用は、子どもの自立を妨げる。大人は代償を求めず、子どもの話に耳を傾け、笑顔で声をかけ続けることで、子どもは幸せになる。」それは、高校時代に先生が「いいか、何でも聞いてこいよ！」と言って笑顔で授業を始められたあの姿と重なるものでした。

先生と出会って間もなく四十年が経とうとしています。今でも、子どもの心に寄り添っているか、自分を見つめ直すとき、先生の姿を思い出します。



P.N. AOI (大野郡)



P.N. アモル (関市)

QUESTION-3

いつも文句ばかり言う動物はな～に？



出題・三宅 晴 (美濃加茂市)
《答えは41ページ》

一緒に

子育て半生記

高山市立江名子小学校PTA副会長 加藤 円

PTAという役柄、様々な会合や研修、講演会に出席します。正直なことを言えば、初めての場所や初めて顔を合わせる方々、このような場に出席しても大丈夫だろうかと不安だらけで行くことが多いような気がします。それでも、終わった時に（ここに来て良かった）と思います。

特定の人しか出席しない場がほとんどですが、出席したからこそ知り得る内容の話だったりすると、この話は他の人にも聴いてもらいたいなあとか、何とかお知らせできるといいなあとと思います。

学校給食のことでもとてもいい話を聞いた時に、ここの話では勿体ないと思う、PTA会員である保護者の方に向けてお便りを書かせてもらいました。どれだけの人の目にとまったかは分かりませんが、「〇」ではないと思うので、発行して良かったと思います。

今回ここで紹介したいお話は、ある講演会を聞きに行った時のことです。

まず会場に入ると、前列しか空いていませんでした。前の方はちょっと苦手かなと思いつつも座りました。

NPO法人「富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊」理事長 早川たかし先生の講話でした。

始まりました。周りの人がどんどん皿をまわし始めます。私も挑戦してみました。が、まわりません。最後の最後まで皿をまわすことができませんでした。

その時、先生に言われました。「頑張るすぎているからまわらないの。もっと力を抜いてみなさい」と。皿をまわせない悔しさは、あつという間に消えました。その一言が、私にはとても嬉しく思えたのです。日々の生活の中での子育てや仕事などを認めてもらえたような気がしたのです。

先生は皿まわしの最中、会場にいた人たちの顔を見ていたそうです。できていてもできていなくても全員、笑顔だったそうです。まずは大人であることを忘れて、自分の好きなことや得意であることで子どもと『一緒に』遊ぶことから始めてみませんか、と。

近年、子どもたちを取り巻く環境が変わり、TVゲームやインターネット、数々の習い事で遊びの時間が減って、子どもらしさを失い、心身を病む子どもが増えている、その原因は社会や地域、家庭や学校に遊びが無くなったことではないか、というお考えでした。

山里の廃屋を修理して、子どもが自由に遊べる「子どもイタズラ村」という遊び場を作られたそうです。窓ガラスが割れていて、破片も落ちていた所は、あえてそのままにしておいたそうです。

そこに様々な年齢の子どもたちが訪れました。打ち解けて遊ぶ中で、次第に年齢の大きい子どもがそのガラスの破片の前に立ち、小さな子どもが近づけないようにしたそうです。

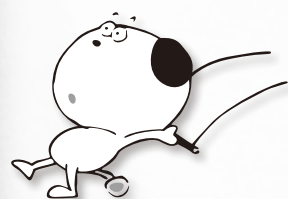
子どもにとって一〇〇%制約の無い遊び場を目指すため、イタズラ村のスタッフの役割も決めたそうです。その中の一つが「ルールを守らせよう」としたり、しつたり、何かを教えようと斯道するようなことはしない」というものでした。

「大人は見守る」。その中で子どもたちは自分たちのルールや役割のようなものを見つけ出すそうです。

講話の中で、まずは遊ぶことをしなくなってしまう大人に遊んでもらいたいという事で「皿まわし」が

何歳になっても我が子は我が子ですが、一緒にいてくれる時間はあとどれくらいでしょうか。一緒にできる何かは日々の生活の中にたくさんあります。一緒に遊ぶ、という事にこだわらず、一緒にやるからこそ分かることや初めての経験など、身につくことが多ければ多いほど、今の社会に対応できる力が付くと思います。

五人の子どもたちそれぞれと、時には五人全員と一緒にできることを見つけ、「力を抜いて」頑張っていると思います。



PTAふれあいニュース

vol.8

(家庭十学校十地域)×連携Ⅱ共有

可児市立今渡南小学校PTA

子どもたちに大切なものとは？PTA本部役員になり考える機会が多々ありました。答えは人の数だけあるでしょうが、「家庭・学校・地域の連携」が不可欠ということは間違いではないと思います。

これら三者で共に児童を育むことを本校PTA会長は『共育』と名付け、今年度活動スローガンに盛り込みました。共育とはうまい名付け！実は私、本校には共育のマインドがあることを以前から感じていました。一例としてホタル事業をご紹介します。

校区近傍を流れる可児川、そこにはかつて多くのホタルが観られたことから名付けられた「蛍橋」があります。昭和五十年代後半には激減しますが、平成四年から本校で保護飼育し、放流を続けています。

ホタルは環境に敏感で、飼育には



手間がかかります。加えて、児童主体の活動となるよう仕向けることで、ご指導いただく地域の方々と先生方・保護者の労力は何倍にもなっていますし、数々の失敗も…。しかし、活動に根付く共育の精神で継続することができています。

PTA活動が三者連携の機会となり、共育が更に根付くよう、残りの任期も頑張ります！

毎年、低学年向けに学級委員を中心に絵本の読み聞かせを行っています。この活動は、「本に慣れ親しみ、心の成長と親子のふれあい」を目的に始められました。

今回は、二年生の児童を対象に行いました。『こんもりくん』、『もったいないばあさん』、『とうめいにんげんのしょくじ』の三冊を披露。これらは、夢のある話や、感謝の気持ち、食育に関するメッセージが込められています。

子どもたちに普段から教えたくても、言葉にして教えるには難しいことも、絵本でなら伝わる温かさがあると信じています。子どもたちは、とても真剣で楽しい時には笑い、表情豊かに集中して聞き入ってくれました。参加した私たちも、大勢の前で音読することはあまりないので、よい経験になりました。

今後も、このような活動を通じて、会長の口癖「元気があれば、何でもできる！」をモットーに、子どもたちへよい刺激が与えられるよう、親子の



ふれあいを大切にしていこうと思います。

可児市立帷子小学校PTA

読み聞かせでふれあい、心の育みを

親子で取り組む「環境整備作業」

可児市立東可児中学校PTA

東可児中学校PTAでは、毎年盆明けの土曜日に環境整備作業「親子奉仕作業」を開き、学校のために、親子協働で汗を流します。

作業内容は、朝七時から約一時間、受験生である三年生を除いた生徒と保護者により行われるグラウンドの草取りです。

子どもたちは、約一か月後にある体育大会に向け、気持ちよくグラウンドが使えるように、必死で手を動かします。

親もその姿に同調？するように頑張ります。

おかげで毎年気持ちよく体育大会を迎えています。

PTAとしては、この「環境整備作業」には、ただグラウンドを綺麗にするだけではなく、親が先生方と顔を合わせることや、親が子どもの違った一面を見つめることなど、作業を通して心の充足感を期待しています。地道な活動ですが、今後も継続していきたいと考えています。



親子・地域ふれ合い草刈り活動

可児市立広陵中学校PTA

広陵中学校では、毎年夏休み最後の土曜日に「親子・地域ふれ合い草刈り活動」を行っています。広陵中学校のグラウンドは、四〇〇メートルトラックが作れる程広く、雑草の多さに例年頭を悩まされています。しかし、この雑草が、親子・地域・学校を結ぶ意外な役割を果たしてくれています。草刈り活動日には、生徒と保護者以外にも、民生児童委員さんや地域の方々がたくさん応援に来てくださいます。

今年度は、仮称「笑顔の学校地域応援団」という、充て職でなく、学校を助けたいという有志の皆さんの呼び掛けにより、五十人以上の地域の方々が来てくださいました。活動日の数日前に、草刈り機を使って作業をしてくださる方や、後日再び草刈り機で作業をしてくださる方もあり、

地域とふれ合うことの大切さを改めて感じました。親子のふれ合いについても、日頃は見ることのできないクラスメイトという我が子の姿や、幼稚園の頃から知っている子が、すっかり大

人になっている姿は、予想以上に新鮮で、親子や保護者同士の会話を自然と盛り上げてくれました。朝六時過ぎに集合し、八時に解散、当日参加できない場合は代替日に参加というハードな活動です。また、中心となるPTA学級委員会をはじめ、本部役員・実行委員会にも負担が大きい活動ですが、学校の環境美化だけでなく、各家庭や子どもたちにとって、とても有意義な活動となっています。

広陵中学校PTAでは、来年度以降も、こういった人と人の「ふれ合い」を大切にしたいと考えています。





転んでも、大丈夫

ぼくが義足を作る理由

白井二美男 著
ポプラ社

垂井町立合原小学校PTA

清水早苗



この本との出会いは、夏休みの宿題の定番である読書感想文です。

明治五年のプレーボール

佐山和夫 著
日本放送出版協会

七宗町立上麻生中学校PTA会長

池戸 洋太



私は子どもの頃、野球少年でした。学校が終わるとグラウンドで暗くなるまでボールを追いかけて、家に帰るとテレビでやっている野球中継を夢中になって観ていました。

最近日本人選手が米国に渡り、メジャーリーグでも活躍するようになってからは、米国の野球にも興味を持つようになりました。

そこで、一つの疑問がわいてきました。野球が米国から日本へ伝わった事はなんとなく知ってはい

娘から、「今年は、この本で書くから読んでおいてね。」と一冊の本を渡されました。表紙をめくるとカラー写真で義足の方が活躍されている姿が載っていました。私は、この数ページを見ただけで、こんなに様々な義足があり、頑張っておられる方がみえることに驚きました。そして、本の書き出しが、「この本をとってくれてありがとう」とでした。娘に言われ何となく読もうとしていた私は、恥ずかしくなりました。そして、この本を真剣に読もうと思いました。この本は、いくつか感動シーンがあります。私が最も感動したのは、義肢装具士の白井さんが本気で怒った場面です。両親に付き添われ、松葉杖をついてやってきた鈴木君は、白井さんに会うために山梨県から来たのに、別の装具士を紹介されたのです。白井さんが所属している鉄道弘済会の中には、「白井さんは、患者さんに無理をさせる。」と心配している職員がいて、義足でスポーツをすることに反対する声があったので、意図的に違う担当者をつけたのです。それを知った白井さんは、「本

でしたが、どのように誰が伝えたのだろうか？子どもの頃、活躍していたプロ野球選手はもろんのこと、甲子園で活躍した選手もたくさん覚えています。しかし、野球を日本に伝えた人は聞いたことがありませんでした。

『ホーレス・ウィルソン』初めて聞いた名前でした。この本は、野球を日本へ伝えたホーレス・ウィルソンの数少ない資料と情報を元に書かれた物語です。簡単にあらすじと感想を書きたいと思っています。

時は明治維新直前の米国、奴隷解放の声と共に南北戦争が勃発します。その悲惨で凄惨な戦争の中で、兵士の娯楽として野球が楽しまれており、その兵士達が戦後各地で野球を広めていきました。若き日のウィルソンもその一人となります。皮肉な事ですが、戦争がなければ野球が急速に広まる事はなかったそうです。日本は明治維新が起こり、西洋文化を取り入れるために、外国人教師を募集します。そして、ウィルソンは数々の運命に導かれ、日本へと渡ること

気で競技をやるために会いにきてくれたので、鈴木君の義足作りをやらせてほしい。」と担当者に頼み、代わってもらいました。代わってもらえたので、気持ちが悪く立ちました。あんなに腹が立ったのは、この一度きりだったそうです。私は、患者さんの思いに込めるために、義肢装具士としての強い思いをもって仕事をしてもらえる白井さんの姿に感動しました。

私が、この本をお勧めしたい理由は、白井さんは、二十八歳までやりたいことが見つからなかったのですが、義肢装具士と言え白井さんと言われるまでになれたことを伝えたかったからです。そして、何でもやってみないと分からないという気持ちで、目の前の人にチャレンジすれば、人生は変わってることが、記されているからです。

義肢装具士になって間もない頃、患者さんに「おれの大事な義足を任せられない。」と言われ、悔しい思いをされました。その悔しさをバネに技術を身につけるだけでなく、様々な年齢層の方と話をし

になります。

明治四年、第一大学区第一番中学に着任します。現在の東京大学だそうです。

野球が東京大学から始まった事には驚きましたが、当時の日本が優秀な生徒に西洋文化を学ばせようと外国人教師を連れてきた事は理解できました。球技の好きなウィルソンは、休憩時間にグラウンドでバットを持って球を打ち、生徒たちに取らせて楽しんでいました。

これが、野球の始まりと言われているそうです。ウィルソンは娯楽として野球を教えたにすぎません。しかし、それが若者の心を掴み、しいては国民の心を掴み、私たちが熱狂する国民的スポーツとなり、王選手や長嶋選手などの国民的スターが生まれました。

米国では娯楽であった野球が日本では精神鍛錬の競技として広がっていったそうです。

日本人の私にはこれはよくわかります。息子と娘が野球をしており、少しですが野球にかかわっています。子どもたちにまず教える

て、少しずつ信頼関係を築いていかれたそうです。私は、どんなことに対しても努力を惜しまない白井さんの姿に感心しました。

私はこの本を通して、大事な足を失いハンディを背負っても、くじけず、たくましく生きている人たちの思いや、それを支える人たちの願いに触れることができました。私だけでなく、多くの子どもたちや保護者の方に読んで欲しい一冊です。



のが、しっかりとした挨拶と規律です。そうした所でも、日本の野球が武道に通じる精神鍛錬の場となっているのだと感じました。

最後になりますが、この本を読んでもより一層野球に興味がありました。スポーツだけでなく色々な物事のルーツを探ってみることはとても楽しいことだと思いました。

野球の好きな方、そうでない方も楽しめる本なので一度読んでみてはいかがでしょうか。



いつものトラック。ただ繰り返す。

今日も、明日も。

1kmでも長く走ったか？

昨日の自分より、速くなったか？

ゴールは向こうからは、やってこない。

だから近づく。一步一步。

挑戦は、美しい。



©アフロスポーツ

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

貴重な時間の中で

山県市立大桑小学校PTA会長 山田 正臣



わが家は、私たち夫婦と長女（高一）、次女（小六）の四大家族です。
私は、仕事の都合でなかなか家族との時間がもてません。その貴重な時間の中で大切にしているわが家の約束を紹介します。

約束1 家族の時間を大切にする

家族がそろそろ私の休日は、みんなが予定を合わせ、時間を共有するようにしています。学校の話、できるようになったプチ自慢、お願い事など…。他愛のない会話でコミュニケーションをとっています。あらためて親子の共通点が見つかったりと盛り上がることも多々。会話の内容で子どもの成長を感じることができます。

約束2 バランスよく食事する

小さい頃は、各々のお皿に栄養バランスよく盛り付けていた食事が、今では大皿に変わりました。全てのおかずを手を付ける。わが家の約束です。今では嫌いなものでも、自らひとかけらでも食べるようになっていきます。今後心身共に健康でいられるよう、自らがけてほしいと思っています。

山田家
の巻

74



話そう!語ろう! わが家の約束

宮崎家の約束事は、

1 毎朝の家事分担

2 挨拶・返事・お礼は聞こえる声で

3 ゲームは決められた時間まで 等々です。

1の家事については、三人の子どもたちがそれぞれ幼少の頃から続けています。玄関掃除、廊下掃除、配達牛乳の片づけです。今は三人で分担を決めて毎朝それぞれにこなしてくれています。寒い冬の朝は起きている親としても辛い時もありますが、それでも続けていく大切さを感じ取ってもらいたいと思います。

2の挨拶とお礼はどんな場面でも大切なことだと思います。親も子どもも、声を掛けられたらしっかり返事をする。些細なことでも、してくれたことにはしっかりとお礼の気持ちを伝える。親子で大切にしています。

私が子どもの頃にそうだったように子どもたちも約束事を守れないこともあります。でもなぜこれらの約束事があるのか、必要なのかをしつかり理解できるように伝えていき、感謝の気持ちを忘れない大人になつてもらいたいと思います。



宮崎家
の巻

75



下呂市立萩原南中学校PTA会長 宮崎 清

約束事の必要性を伝えたい

★子の思い

四国りょ行

羽島市立中島小学校

三年 高木 悠輔

夏休み、一番楽しみにしていることは、家ぞくりょ行です。

ぼくの家では、家ぞくりょ行のときも、やくそくがあります。みんながちゃんと楽しくなるように「あつてもおこらなう」「ヘッドをかってにきめない」「時間まで待つ」などのやくそくをきめて行きました。

今年は、四国へ行きました。四国は、パパのリクエストです。うすしおの橋を歩きました。とう明の橋でした。うすしおを見ても、目は回りませんでした。

ホテルのプールに入りました。けっこう式場みたいなおしろみみたいなホテルでした。ふん水もありました。ベッドのやくそくもちゃんと守りました。

次の日は、さめきうどんを食べました。それから、ひめじじょうへ行き

ました。おしろはかいだんがいっぱいありました。あつて、のぼるのがだんだんいやになりました。でも、さい後までのぼつたら、高くてころびそうてこわかったです。

パパが楽しそうて、うれしかったです。

いつもの家族

関市立上之保小学校

五年 波多野 颯大

ぼくの家は、お父さん、お母さん、おばあちゃん、お姉さん、お兄さん、弟、そしてぼくの七人家族です。お父さんは毎日朝から夜までがんばってお仕事をしてくれています。お母さんも同じように、毎日朝早く起きてぼくたちのために朝ご飯を作って、その後で自分のお仕事のために職場へ向かいます。共働きでも両親は、毎日一生けん命がんばってくれています。おばあちゃんは、家の畑仕事をやってくれています。そのおかげで野菜がたくさん採れ、家族でおいしくいただいています。

こんな三人のすがたを見ながら、ぼくたち四人の兄弟は、少しでもお父さんやお母さん、おばあちゃん、お兄さんが少なくてできるよう自分のできるお手伝いを続けています。高校生のお姉さんは帰りがおそいけど、夕飯のお手伝いをしています。お兄さんは、お姉さんが忙しかったり、親の帰りがおそかったりすると、兄弟にふとんしきや、せんたくをたたむお手伝いのよびかけをしたり、自分から進んでお手伝いをしたりと、ある意味、家のリーダー的のそんざいになってがんばっています。弟はまだ一年生だけど、ご飯のときはし並べなど自分のできることをすすんでやっています。ぼくはというとみんながやっていない仕事を自分なりにさがしてきくと家族のためになると思っています。

くたちはうれしいけど、こういう毎日の生活が何げなく、ふつうにすぎていくところがぼくの家族のいいところだなと思います。一人ひとりが家族のためにできることをふつうにやる、こんないつもの日常、こういう「いつもの家族」がぼくは大好きです。みんないつもありがとう。これからもよろしくお願いします。

神測の伝統文化を守りたい

七宗町立神測中学校

三年 中島 強太

神測神社の春の例大祭は、天照大神を呼び起こすために、天岩戸の前で行った舞を表すとても賑やかな祭りです。四〇〇年前から伝えられている神測の伝統行事です。大祭当日は、みこしを中心とした行列が境内を練り歩き、黒獅子が大暴れます。山車の上で、太鼓や笛に合わせて、天狗とおかめが舞を披露します。

しかし、今、この神測神社の例大祭の運営の一部が困難になりつつあります。去年の春、僕は、ボ

大人でも、笛を吹く人の数が減っています。人口の減少により例大祭のような伝統文化の継続が難しくなっているのです。

神測の魅力といえば、豊かな自然、天然の鮎、そして、神測神社の例大祭です。この例大祭を衰退させてはいけないと思います。そのため、今の僕にできることは、

神測神社の例大祭をしっかり受け継ぎ、守り、伝えていくことです。一生懸命に笛を吹いて、例大祭を盛り上げていきたいと思っています。そして、この祭りのことをもっと多くの人に知ってもらい、神測の活性化につなげたいです。仲間にも呼びかけて、仲間と一緒に、伝統文化である神測神社の例大祭を

受け継ぎ、守り、伝えていけるよう頑張りたいと思います。

★親の願い

貴重な時間に感謝

下呂市立菅田小学校PTA

会長 日下部 裕

親が子どもに対して何を願うか…今回、わが子のあゆみの執筆依頼があり、そのテーマが「親の願い」〜わが子、地域の子を育てる親の立場で実態を考えどう対処するか日頃の思いを紹介〜というテーマでありました。

日々の私の生活は仕事や少年野

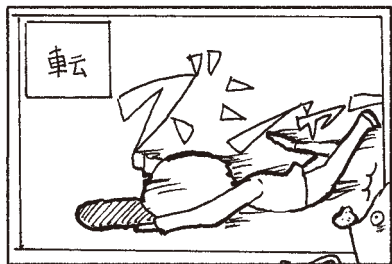
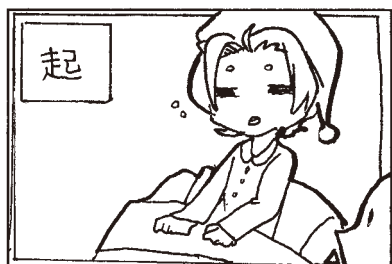
球の指導で時間に追われる生活が続いておりまして、そんな生活が長く続くと、自身が二人の子の親であることや二人の子どもの存在も当たり前となってしまう、情性で日々の生活をしているような状態になっていました。

せっかく頂いた執筆依頼ですので、これを機に時間を作り、「子育て」について、ゆっくりと考えてみることにしました。

我が家には小学六年生の長男と保育園年少の長女がいます。親として子どもに何を願うかと問われた時に私が真っ先に浮かんだのが大きな病気や事故などなく普通に成人して家庭を持ち、子どもを授かり、温かい家庭を築いて生活

大垣桜高校 まんが研究部

起承転結!!



逆さ言葉

しぶいぶし

(泣い武士)

出題・繁 ハナ子 (関市)

をしていてほしいということでした。

これは、多分この親御さんも願っていることだと思いますが子どもがそこに至れるようになるまでの過程として、今、親として何ができるのか？子どもの人格が出来上がっていくこの貴重な時期に何を手助けできるのかを、自分なりに考えて行動に移すことしました。

一番意識したのはコミュニケーションです。些細なことでも会話につなげて会話がないうちを作らないよう意識し、長男が少年野球で筋肉痛になればマッサージをしてあげたり、長女が「だっこして」や、「ギュッと」と言えは抱きしめてあげたり、体と体のふれあいも大切にしました。特にこの体と体のふれあいは自分自身にもかなり良い影響がありまして、心が落ち着いていくのが手に取るように分かったため、進んで行動に移しました。

こんなことは皆さんの家庭では普通のことかもしれませんが私には新鮮で『幸福感』で胸がいっぱいでした。子どもたちも同じ気持ち

ちになったかどうかは分かりませんが、少なからず何かは感じ取ってくれていると思っていますし、良い影響を与えていることはその後の子どもたちの笑顔で分かります。

子どもにとって親はいくつになっても親ですが、こうして子育てできる期間は長くは続きません。私はこの限られた貴重な時間を無駄にすることなく、子育てしながら自分も一緒に成長できたなら、こんなに素晴らしいことはないなと思っています。

蔵之助、虹心理ありがとうございます。これからもよろしくね。

縁（仲間と共に）

可児市御嵩町中学校組合立
共和中学校PTA

副会長 水野 哲也

我が子も義務教育最終年となり、最後の中学校生活を楽しんでいます。まだはつきりした自分の夢は思い描いてはいないものの、自分のやりたいことを見つけ、目標に向かい高校選びをしている様

子です。

私の中学校生活を振り返ってみると、その当時は自分の目標や将来の夢など考えてなかったように思います。小学校一年から始めた野球に没頭し、卒業アルバムには、「将来の夢は？」と聞かれると、「プロ野球選手」と答えていたものでした。当然プロ野球選手という夢は幻で終わりましたが、今でも草野球チームに所属しプレーするほか、少年野球の指導者や審判、高校球児である息子の応援など野球に携わる生活を楽しんでいます。

これまでの学校生活や野球を通じて、多くの仲間との出会いがありました。今でも現在の仕事に役立つ部分も少なくありません。仲間と過ごした時間を思い出しつつ、新たな出会いを期待しながら日々過ごしています。生涯会える仲間に限られると思いますが、一人でも多くの仲間と出会うこと、またその出会いを大切に、いかに自分の糧にするかが自分を成長させる要素ではないでしょうか。子どもにはこの仲間をいつまでも大切にする気持ちを持ち続けてほしい

と願います。

私が過ごした小学校と中学校に自分の子どもも通い、それぞれPTA本部役員を務めさせていたできました。保護者同士の付き合いだけでなく、学校の先生や地域の方々との触れ合いを通じて、またひとつ自分を成長させてもらえる機会をいただき、貴重な経験をさせていただきました。

僭越ながら、現在は中学校PTAの副会長という役をいただいています。会長・副会長（兼母親委員長）・会計の四役は、なんと中学校時代の同級生です。当時仲の良かった仲間とこうしてPTA役員として一緒に活動できるのも何かの縁です。この縁を大切に、残り少ない義務教育生活を過ごす子どもたちを応援していきたいと思っています。

子どもたちには、自分の夢を見つけ、その夢に向かって何事にも挑戦し、色々な経験を積んでもらいたいと思います。そして、社会に出たとき、その経験を基に自分の得意分野を生かし、社会に貢献できる大人になってもらいたいと

いう思いが私の願いであり、親の願いであります。

教育の窓

アナフィラキシーを体験して

飛騨市立宮川小学校

養護教諭 桑田 祐子

アナフィラキシーとは、種々のアレルギーに接触後、短時間のうちに全身性アレルギー症状が出現した状態です。症状の中でもっとも多いのは、蕁麻疹、発赤、かゆみなどの「皮膚症状」。次にくしゃみ、せき、息苦しさなどの「呼吸器症状」と、目のかゆみやむくみ、

唇の腫れなどの「粘膜症状」があります。そして腹痛や嘔吐などの「消化器の症状」、さらには、血圧低下など「循環器の症状」もみられます。

このアナフィラキシー症状が重症化し、血圧低下や意識障害などを引き起こし、場合によっては命を脅かす危険な状態になることもあります。この命に関わる危険な状態をアナフィラキシーショックといいます。この症状は、早期にエピペンを使用することによって、進行が一時的に緩和され、ショック状態を防ぐことができます。

近年、アレルギーの管理指導票を持つ児童・生徒数は増加しています。皆さんの学校にもエピペン

を処方されている児童・生徒がみえるのではないのでしょうか。

私は、成人してから軽度のアレルギー症状が時折出現するようになりました。先日、家族で旅行をしたときのことです。就寝中に目が覚めると次の瞬間、せきが止まらなくなりました。のどが痒く、気が付くと目をこすっていました。五分も経たないうちに目の腫れと、全身に蕁麻疹が出てきました。鼻水も出始め、呼吸が苦しくなっていくのを感じ、声を出すことも辛くなってきました。命の危険を感じ、救急車を呼んでもらい病院へ搬送されました。

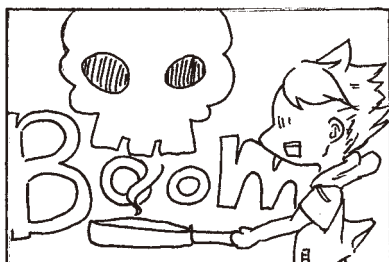
アナフィラキシーで死に至る一番の原因は、急速に進行した浮腫

による窒息です。搬送先の病院で、エピペンと点滴による輸液の処置をしてもらい、症状は改善していききました。アナフィラキシー症状は、二相性反応といって、一旦症状が改善してしばらくしてから症状が再び出現することがあります。明け方には、その心配もなくなり、帰宅することができました。

アナフィラキシーやアレルギーの症状、病態について、ある程度知識は持っていました。自らが体験することによって怖さを改めて実感することができました。また、私の場合、未だアレルギーが特定できていないので、予防のしようがなく、いつどこで同様の症状が現れるのか、不安もあります。

大垣桜高校 まんが研究部

Let's cooking...?



逆さ言葉

うそみすかすかすみそう

(嘘見透かすカスミ草)

出題・木戸 農太郎 (羽島市)

食物アレルギー等でアレルギー管理指導票を持つ児童・生徒がいる学校では、教職員で情報を共有し、管理を徹底すること、発症時の迅速な対応・校内の救急体制が重要になります。自校にアレルギー管理指導票をもつ児童はいませんが、既往のない児童もアレルギー症状を発症する可能性はあります。私の体験を教訓に、アナフィラキシーの正しい知識と対処法を再度確認し、適切な対応ができるよう環境を整えます。

近々私もエビペンを処方してもらう予定です…

家庭での道徳教育 ～家風によって育った自分～

岐阜市立岐阜清流中学校
教頭 北川 量三

平成三十年度から小学校、平成三十一年度から中学校でも「特別の教科『道徳』」がスタートします。道徳を教科と位置づけ、児童生徒が生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等を身に付けさせることがと

ても重要だと文科省が判断したからです。「道徳の時間」はもちろん、学校の教育活動全体を通じて行うこととなります。また、家庭や地域においても活用されなければなりません。

しかし、最近では、極端な放任家庭や過保護に陥る親子関係、さらには児童・生徒虐待や子どももの権利や尊厳、生命の軽視など社会的・教育的に憂慮すべき問題が多数発生しています。我々教師が生徒の指導をしていても、問題行動の根本が、その子家庭環境、育ち方、親の教育観などによるものであることが多々あります。

したがって、一生懸命に教師がその子に寄り添った指導をし、良くなったとしても、親や家庭が変わらなければ、どうすることもできないという歯がゆさを感じることもあります。家庭の教育力を向上させるためには、家族の絆を深めることを大切に、健全な家庭や地域をつくる必要があります。家庭の教育力の基盤は「家庭のしつけ」だと思っています。

こんな偉そうなことを言っては

いるけれど、自分の家庭は一体どうだったのだろう。胸を張って言うことはできません。

私はどちらかというと閉鎖的な環境で育ってきました。高校は徒歩で通い、大学は地元です。教員になってからも外へ出ることなく、生まれてから一度も実家から離れることがありませんでした。また、私の住む町内には自分と同じ苗字が多く、町内には室町時代から続いている由緒ある祭りもあり、近所や一族のつながりも少なくはありません。長男の私は、それなりに跡取りとして育てられ「恥の文化」の中で育ってきました。「どこで誰が見てるかわからなくて、後ろ指さされんようにしろ」とか「人様に迷惑をかけんようにしろ」ということを言われ続けていたと思います。例えば、校区外でふらつとしていると「息子さんが〇〇で遊んどったよ」とすぐ親の耳に入り、叱られたものでした。近所の目を気にしながら生活をしていましたが、今思えば、多くの子どもたちを地域が見守っていてくれたんだと思います。

こんな家庭環境の中で育ったにもかかわらず、自分の家庭はほとんどきちんとしたしつけができていませんでした。わが家は三人の息子がいます。夫婦共稼ぎでしたし、中学校勤務が長い私にとって、土日は部活動、平日は夜遅くまで学校で勤務をし、家族サービスがほとんどできませんでした。しかし、三人とも近くの進学校から大学に進み、長男と次男は立派に就職し、うまく育ったと思っています。

それは、子育てのほとんどを祖母に託していたからです。祖母は、私を育てたように「人に迷惑をかけるな」「約束を守れ」「誠実であれ」などを自然に生活の中で教えていたのでしょう。祖母に育てられた三人の息子たちは、優しく育ち、今でも祖母を慕い大切にしています。

父の命日の三十日には、家族そろって読経をすることがわが家のしきたりの一つです。少し閉鎖的な家族の在り方ではありますが、家風が生活の基盤として今後とも脈々と受け継いでいくものだと思います。

11月号の

親子ではてな



Q2 国名と通貨の単位の組み合わせが違うのは、次のうちどれでしょう。

- ① メキシコ ペソ
- ② トルコ リラ
- ③ 日本 円
- ④ タイ ルピー



Q1 11月3日は「文化の日」です。「文化の日」について正しく述べられているのは、次のうちどれでしょう。

- ㊦ 文化の日は「まんがの日」でもある。
- ㊥ 戦前から昭和22年まで、11月3日は休日ではなかった。
- ㊤ 11月3日は昭和天皇の誕生日である。



応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 11月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

9月号クイズ答え

- Q1 ㊦
- Q2 ③

9月号のクイズ当選者

亀山 実有佳 (岐阜市) 繁 八ナ子 (関 市)
伊藤 慎介 (山県市) 鈴木 麻友 (郡上市)
木戸 農太郎 (羽島市) 三宅 晴 (美濃加茂市)
堀 希実 (羽島市) 長瀬 良磨 (美濃加茂市)
大平 修也 (海津市)
名和 秀晃 (安八郡)

おからは食物繊維やカルシウム、たんぱく質、炭水化物、カリウムが多く含まれた食材として、注目されています。また、安価でローカロリーなので、最近ではお惣菜だけでなく、クッキーやケーキなどお菓子作りにも広く使われています。今回は手軽においしくおからの栄養を摂ってもらえるよう、親子で簡単に作れるドーナツを紹介します。

作り方

- ①バターはレンジで5秒ぐらい加熱してやわらかくしておく。泡だて器で三温糖とバターを白っぽくなるまでよく混ぜ、溶き卵を少しずつ加えて均一に混ぜる。
- ②小麦粉とベーキングパウダーをふるいにかけて①に加え、おからと牛乳を入れて、ゴムベラでさっくりと混ぜ合わせる。
- ③揚げやすい大きさのボール型にして形を整える。(手に油をつけると生地がつかなくて良い。)
- ④180℃に熱した揚げ油の中に③を入れて、きれいに色づくように、浮いてきたら転がしながら揚げる。
- ⑤油をきって器に盛る。

材料 4人分

大きさによって1人
2～3個できます。

バター……………大さじ1
三温糖……………大さじ4
卵……………1/2個
小麦粉……………1カップ弱
ベーキングパウダー……………小さじ1
おから……………50g
牛乳……………大さじ1
揚げ油……………適量

調理のポイント

浮いてきても、色がきつね色よりも少し濃い色になるまで揚げる。
(中までしっかり火を通すため)

<注意点>

1. おからは傷みやすい食品なので、購入後すぐに使用するか、冷凍庫で保存して下さい。
2. 料理する際には、中までしっかり火を通すとともに、全面にきれいに色が付くように、転がしながら揚げてください。

●栄養価(1人あたり)

エネルギー……………188kcal
たんぱく質……………3.5g
脂質……………7.1g
カルシウム……………28mg
鉄……………0.5mg
レチノール当量……………43μg
ビタミンB₁……………0.19mg
ビタミンB₂……………0.12mg
ビタミンC……………0mg
食物繊維……………0.7g
塩分相当量……………0.1g



■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて予約購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■9月号を読んで

「先生との思い出 小学生の頃の私」

とてもステキな先生との出会いの内容を読み、私自身の小学生の時の先生を思い出しました。保健室に良く通っていた私にとって、養護の先生は学校の中での母のような存在でした。温かく接してくださった先生は、安心感と肯定感を私の中に生み出させてくれた大切な先生でした。子どもにとって先生との出会いは人生を左右する大事な出来事です。

Mさん

「違いばかりにとらわれず」

貴斗君のお母さんの前向きに、病気だからとあきらめず、人との交流を続けられ、さらにオリジナルのコミュニケーション手段を考えられたこと、本当にすばらしいと感じました。ありのままの自分を堂々と出すことで、相手も同じように接してくれ、お互いを理解し、人としての温かみも感じ合う。表面の違いばかり気に取られ、本質が見えない事、見た目では分からない真の姿があることを意識してみたいと思いました。

Sさん

「きらり!キッズ!」

開校したばかりの桑原学園の記事を読みました。他の学校より異学年交流の場が増え、充実した学校生活が送れるでしょうね。「あいさつ」が伝統の1つだそうです。我が子もクラスであいさつ係を担当しています。先日、前期のふりかえりという事で、係としてがんばった事や課題を書きだした用紙を持ち帰りました。数日後の授業までに完成させるものでした。娘が「人に対して、どんなあいさつがいいかな」と聞いてきたので「う～ん」と2人で考え、(子)「大きい声であいさつがいいよね?」(母)「ただ大きい声でさけぶのはあいさつかな?」(子)「あ、そうか!相手の目を見る!」(母)「うん、そうや、気持ちが伝わるもんね!」「小さい声でもハキハキ言えば気持ちが伝わるよ」などと、あいさつについて深く考え、話し合いました。娘の瞳はイキイキとし、キラキラ輝いていました。とても楽しそうでした。母と子で共通の話題(TVや遊びではない)について話をし、私はとても嬉しく内容の深い会話ができたと充実感でいっぱいでした。

Hさん

「ふるさとへの伝承」

9月号に母校が載っていて、とてもうれしく思いました。小学校で学習してきたことが、そのまま紹介されていて、改めて誇りに思ったり、沢山の人の知ってもらえたらいいなと思いました。ちなみに版画の作成は、娘が6年生の時に作り上げました。現在高3です。

Oさん

■編集後記

日本に、子どもたちの保護者と学校の先生が話し合っ、子どもをより良く育てていこう、という願いから生まれたPTAには、大きな期待がかけられていました。70年前、戦争が終わって2、3年後のことです。今なら、「そんな事までPTAでやっていいの?」と問題になるような内容もありました。国中が、その日の衣食住もままならない状況の中で、「この国の将来は子どもをしっかりと育てること」と、奔走した当時の保護者や先生は、今や80代、90代。その願いはその子、その孫に受け継がれて、現在、各学校で行われているPTA活動に生かされています。今では、当時の衣食住とは大きく変わり、子どもの教育環境も飛躍を遂げ、科学や経済を発展させて国際社会に貢献できるまでに国力を高めました。ところが今、日本の人口が毎年減少しています。子どもの人数も減っています。増えているのは高齢者と過疎の地域です。70年前のPTA誕生の思いに立ち返り、教育を含めたこれからの子育てを考えます。7月号からの連載「PTAのABC」の一読を。

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。



「なぞなぞ」の答え

- ①夕日(沈むから)
- ②ホットケーキ
- ③牛(モーモー)

■平成30年1月号のお知らせ(予告)

特集=PTA役員の選び方/表紙=宮代小/学校のたからものは藍川小・三城小・春里小・多治見中/わが家の宝物=大野西小/家庭教育応援団/PTAのABC④/保健室ノート=明宝小/私の先生=不破中/半生記=牛牧小/一冊の本=大矢田小/羽島中央中/わが家の約束=駄知小・関ヶ原中/ボランティアニュース=本郷小・久々野小・国府小・荘川中/子の思い=弾正小・伏見小・東部中/親の願い=福寿小・山岡中/教育の窓=洞戸小・北陵中/お試しクッキング/ふるさとの伝承=いわね小/きらり!キッズ!=南姫小/我らが部活=向陽中/私たちのPTA=厚見中

わが子のあゆみ

平成29年11月1日 発行
初冬号 第69巻3号
通巻第450号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行/岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259
ホームページ/http://www.g-pta.com
Eメール/info@g-pta.com

印刷/サンメッセ株式会社

白川町立黒川中学校 ふるさとの伝承

ふるさと黒川 地域に元気を

本校は、岐阜県の中央部、美濃と飛騨の境に位置する生徒数四人のへき地小規模校です。地域産業の基幹は農業と林業で、特に白川茶は渋みが少なくまろやかで、全国的にも有名です。

本地区には、明治二十二年に地元の人たちによって建てられた芝居小屋（東座）があります。平成元年から修復し、平成三年に故中村勘三郎さんを名誉館主に迎え復興を遂げ、現在は六代目中村勘九郎さんが名誉館主となっております。

人口流出が多い本地区において、生徒たちは、黒川の伝統文化の担い手となります。地域の行事に積極的に参加することに加え、平成十五年からは、総合的な学習の時間の内容として一年生は和太鼓、二年生は歌舞伎、三年生には三味線を位置付けました。地域住民を指導者に招き、その成果を「東座」で行う学校文化祭で地域の方に発表しています。

各学年の取組を紹介します。

【黒川箱岩太鼓（二年生）】

講師は、黒川箱岩太鼓の代表者であり、平成七年より継続して指導していただいています。文化祭での発表のみならず、夏祭りやふるさと芸能発表会でも、発表の機会をいただき、正確なさばきとともに躍動感あふれる演奏が聴く者の心を揺さぶります。

【歌舞伎（二年生）】

黒川では毎年五月に東座でふれあい講演が開かれ、地元住民を中心に幾つかの演目が披露されます。生徒は小学六年時に出演し、同じ演目を練習、披露します。ただし、半数の生徒はその時とは違った役に挑戦し、新たにせりふと所作を覚えます。小学生の時とは違った迫力ある演技が観る者の心を引きつけます。

【三味線（三年生）】

発足当時は、民謡の演奏を行っていましたが、現在は祭りのお囃子に取り組んでいます。生徒は、普段は三味線を手にすることがなく、指使いには特に四苦八苦しています。しかし、毎年祭りで聞き慣れた曲であり、熱心に取り組んでいます。哀愁を帯びた三味線の音色が聴く者の心にしみます。

いずれも地域に根ざした伝統芸能であり、地元住民からも継承者としての生徒に寄せる期待は大きいものです。この活動が、ふるさと黒川への郷土愛を育むとともに、地域に元気を与えるものであればと願います。



▲2年生 歌舞伎



▲神明神社例大祭 (5/3)



▲3年生 三味線



▲奥新田例大祭 (4/29)



▲1年生 箱岩太鼓



▲1年生 箱岩太鼓 (8/14)

昨年度の文化祭での
各学年の発表の様子
今年度の祭りへの参加

きらり！キッズ！

にわかクラブで活動する六年生の思い

ぼくは美濃の伝統芸能「にわか」を楽しむために、暗い感じにならないよう、六年生全員で盛り上げ、恥ずかしがらないことを意識してやっています。みんなが恥ずかしがっている時は、自分からやってみて、みんなの気持ちをやらわらせるようにしています。また、「ゆっくり、大きな声で、メリハリをつけて」の三つを大切にしているにわかをやっています。にわかクラブはあまり人気がありません。美濃小のみんなに、にわかクラブは伝統を引き継ぐ大切なクラブだということを分かってもらうために、にわかでみんなを笑わせ、幸せにできたらいいなと思っています。

ぼくがにわかクラブでがんばっていることは「大きな声ではっきり」と話すことです。

練習では、見ている人がいっぱいのところをやっていると想像し、誰にでも聞こえるように話しています。また美濃弁のイントネーションを間違えないようにしています。最初は美濃弁らしい音程が難しかったけれど、四回目ぐらいの練習から、だんだんできるようになってきました。

「大きな声ではっきりと」や「音程」はほかのことにも使うことなので、にわかの腕を磨いて、もっとがんばろうと思います。

ぼくは美濃小のにわかクラブで、みんなが楽しくなるように、六年生が明るくやらなければいけないと思って練習しています。また、お囃子のテンポや、声の大きさ、速さなどを意識しています。にわかの先生に教えてもらったことは、特に意識してやっています。

地域の講師の方からにわかの演技について指導を受けているところ。



練習のまとめとして1つのグループがにわかの演技を披露し、講師に見ていただいているところ。



にわかの演技がスタートする前の口上を述べているところ。



6年生が下級生にお囃子の指導をしているところ。



グループごとににわかの練習をしているところ。



お囃子の練習を行っているところ。笛を中心としたアングル。

お囃子の練習を行っているところ。太鼓を中心としたアングル。



男子バスケットボール部

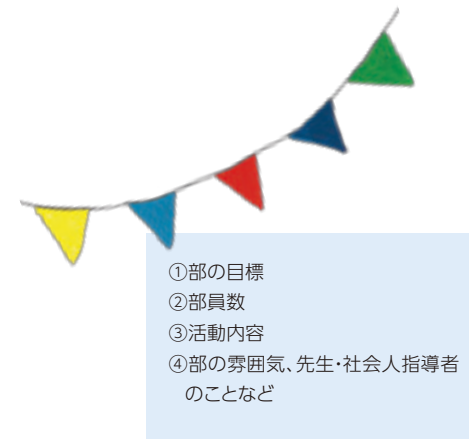


- ①地区大会ベスト8
- ②3年(19人)、2年(9人)、1年(17人)、合計45人
- ③顧問の先生・先輩方の厳しい指導のもと、ゲーム形式の練習を中心に全員で活発に活動しています。
- ④中体連では目標が達成できなかったので、1・2年生はぜひ達成してほしいです。

バレーボール部



- ①県大会出場
- ②3年(9人)、2年(4人)、1年(8人)、合計21人
- ③みんなで声を出し合い、最後までボールを追いかけることを心がけています。
- ④保護者の方々やコーチ、先生方に感謝しお互いに高め合いながら、皆に愛されるチームをめざして取り組んでいます。



- ①部の目標
- ②部員数
- ③活動内容
- ④部の雰囲気、先生・社会人指導者のことなど

岐阜市立岐阜西中学校は、岐阜市の北西部に位置し、1年生(174名)、2年生(185名)、3年生(207名)、合計566名の規模の学校です。学校の教育目標に、『生きぬく力を身につけた生徒』を掲げ、部活動でも目標をもち努力を継続させ成長できた実感を味わうこと、「仲間から認められた」「集団に貢献できた」という感動を味わう成功体験の積み重ねを大切にしています。生徒の90%が部活動に所属して活発に活動しています。

剣道部



- ①中体連 地区大会出場
- ②3年(7人)、2年(19人)、1年(8人)、合計(34人)
- ③朝練(素振り、足さばきの基本など)
放課後(防具をつけた実戦練習、基礎体力づくり)
休日(基本、普段できない練習)
- ④練習は辛く厳しい中で自分の弱い心に負けないということを全部員が意識して取り組んでいます。また、試合に勝つだけでなく、試合に出ていない人も精一杯応援して、チームが一丸となって勝つことをめざしています。

女子バスケットボール部



- ①県大会出場
- ②3年(10人)、2年(7人)、1年(11人)、合計28人
- ③基礎基本を身につけるために、毎日練習しています。
- ④礼儀正しく、さわやかに、大好きなバスケットに全力で取り組んでいます。

ソフトボール部



- ①県大会出場
- ②3年(13人)、2年(7人)、1年(4人)、合計24人
- ③バッティングや守備の基本的な練習から、試合に勝つための実践練習を中心に行っています。
- ④運づくりとして、挨拶や草ぬき、掃除を進んでやっています。時には厳しく、時には楽しく練習しています。とても仲の良いチームです。

野球部



- ①市大会優勝、県大会出場
- ②3年(7人)、2年(8人)、1年(8人)、合計23人
- ③基礎・基本をしっかりと身につけ、仲間との関わりを大切に、「自分から気づく」ことをこころがけて練習をしています。
- ④日常生活を大切に、リーダーなどに積極的に立候補して学校生活から部活動につなげています。それらの活動を通して、周りから応援される野球部をつくってきました。声の大きさ、部活への本気さは負けないチームです。

美術部



- ①応募作品で入賞する
- ②3年(15人)、2年(18人)、1年(21人)、合計54人
- ③定期的に応募作品に向けた作品づくりに取り組んでいます。普段は、アニメやイラスト等、個人制作をします。美術室廊下に掲示しています。
- 共同作品としては、体育大会のスローガン旗作り、フラッグアート展出品の垂れ幕づくりをします。
- ④個人制作が多いですが、みんなで協力して制作します。楽しく絵を描いて素敵な作品をたくさん制作していきたいです。

合唱部



- ①Nコン(NHKコンクール)予選突破
- ②3年(23人)、2年(7人)、1年(9人)、合計39人
- ③各パート練習、全体合唱、発声練習を中心に行っています。
- ④部員は明るく良い雰囲気、同じパート同士だけでなく、違うパート同士でも仲良く、合唱に対して一生懸命に取り組み、声量や表現の向上をめざしています。

サッカー部



- ①チーム一丸となって一戦必勝
- ②3年(14人)、2年(18人)、1年(6人)、合計38人
- ③基礎体力、応用(パス、シュート)、試合形式の練習をしています。
- ④明るく、チームワークがよいこと。技術が身につく指導を受けることが特長です。

陸上競技部



- ①より速く、より高く、より遠く
- ②男子(56人)、女子(52人)、合計108人
- ③「走る」「跳ぶ」「投げる」の動きを中心に、質を考えた練習をしています。努力するだけ記録が伸びる、やりがいのあるスポーツなので、昨日の自分を今日は越えられるよう日々練習に励んでいます。
- ④先輩・後輩の仲も良く、楽しくやることをモットーに厳しい練習をチーム力で乗り越え、がんばっています。

私たちのPTA

海津市立西江小学校PTA

PTAスローガン

家族ぐるみでの家庭教育を考える、
多くの目で見つめる

学校紹介

海津市立西江小学校は海津市の南部、揖斐川のすぐ東で、堤防より低い位置にあります。

校庭の標高は海拔四十cmと低く、五年生の社会科の教科書に「低地の人々の暮らし」という単元で本校の写真が掲載されています。
児童数は八十八名の学校です。

PTA活動について

海津市では、平成二十八年度に『あったかい絆宣言』が公布され取り組んでおります。これはインターネットや情報端末の普及により児童が孤立し、様々なトラブルに巻き込まれる事例を受け、それらを防止するため、使用する際のルール決めや、学校・地域・家族でのコミュニケーションを深めることで児童を孤立させない環境作りとなっております。

本校PTAでは、活動の大半が母親でしたが父親参加型の活動を取り入

れ、家族ぐるみで子どもたちを育てると考え、実施しております。

父親による絵本の読み聞かせ

PTA本部役員を始め、会員のお父さん方にお願ひし、年に四回実施しております。

学校の朝の活動時間、十五分をいただき、低学年・中学年・高学年に分かれ、三人のお父さん方で絵本の読み聞かせをします。



父親による絵本の読み聞かせ

お父さん方は緊張と照れる気持ちを隠しながら読み上げますが、子どもたちの真剣に聞く表情を見て何だか嬉しく思うひと時です。

親子餅つき会

毎年、地元の農業法人やJAの協力を得て稲作を学んでおります。その収穫を祝い昔ながらの臼と杵を使用し餅つき会を実施しております。前日に母親たちで、もち米の準備をし、臼と杵は、父親たちで準備します。

当日は、父親たちの餅つきや掛け声など、頼もしい姿を見ることが出来ます。

その後、子どもたちも杵を使い餅つきを体験します。母親たちで味付けした後参加者全員で、味わいます。

皆で協力し、ついたお餅は何よりのごちそうで、笑顔があふれる活動になっております。

その他の活動

毎年九月に行う運動会に合せ、午後はPTA主催の運動会を実施しております。家族で参加できる競技や祖父母が一緒に楽しめる内容となっております。

また、年に二回実施している資源



資源回収



救命救急法講習会



西江小学校校舎



餅つき会の準備(父親)

回収はPTAの貴重な財源となっております。おり地域の方からも大きな協力をいただいております。
子どもたちが、たくさんの人で支えられていることを感じ、感謝できる様な活動をしていきたいと思ひます。
全ての方々に、ありがとうございます。

餅つき会(笑顔)



餅つき会(子)



運動会午後の部



がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

瑞浪市立陶小学校



地域題材「焼き物」から学ぶ金銭教育

地域の作家を招いての陶芸教室。
初めての粘土の学習に歓声をあげる1年生。



夏祭りに向け天狗岩での演奏会

お囃子保存会の方の指導を受けた横笛。
地域の伝統文化を引き継いでいます。



子どもたちを見守る卒業製作

陶ならではの卒業製作。
トーテンポールが校庭で子どもの笑顔を見守っています。



まちの駄菓子屋さん学ぶ

お店のおばさんとの会話も弾む。
「人・もの・お金」の大切さを学ぶ金銭教育。



地域の行事が盛んな陶町

親子で陶を探検し、まちのよさを再発見。
応援に駆けつけた人気者の「すえっこくん」。



わがまち陶の陶器工場

陶器づくりの願いや工夫を学んだ工場見学。
陶の歴史や文化を大切にする子どもたちに。

わが子のあゆみ

2017.11 No.450 初冬号
第69巻3号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ